

会報

第 19 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

姫路港の空撮

(提供 姫路市)

目 次

第41回月例会概要

(1) 事業経過報告等.....	1
(2) 講演 「神戸開港150年」	
～神戸港の歴史と記念イベントについて～	
神戸市みなと総局みなと振興部	
開港150年担当課長 加納尚剛氏	

第5回地域部会 兼 第42回月例会概要

(1) 事業経過報告等.....	10
(2) 講演 I 「港の災害と防災」	
兵庫県立大学防災教育研究センター	
准教授 馬場美智子氏	
講演 II 「姫路港の歴史と今後の展望」 (国際拠点港湾 姫路港)	
兵庫県中播磨県民センター	
姫路港管理事務所	
副所長 横山耕氏	

事業報告

新町川における船舶の航行安全検討調査シミュレータ実験（その1）.....	43
新町川における船舶の航行安全検討調査シミュレータ実験（その2）.....	46
大阪港主航路附帯施設工事に伴う船舶航行安全対策検討調査第1回委員会.....	49
操船シミュレーション手法を用いた操船影響の把握に関する調査研究	
第2回委員会.....	52
姫路港大型クルーズ客船の入出港に係る航行安全対策検討調査第2回検討部会.....	54
平成28年度第3回船積危険品研究委員会	56
大阪港主航路附帯施設工事に伴う船舶航行安全対策検討調査第2回委員会.....	58
姫路港大型クルーズ客船の入出港に係る航行安全対策検討調査第2回委員会.....	61
操船シミュレーション手法を用いた操船影響の把握に関する調査研究	
第3回委員会.....	64
新町川における船舶の航行安全検討調査第2回検討部会.....	66
神戸港航路・泊地等整備に伴う航行安全対策検討調査第1回委員会.....	69

大阪湾における船舶動静監視と情報提供のあり方に関する検討調査第1回委員会	72
神戸港沖合等における船舶交通流の整流化に関する調査研究第2回委員会	75

會 務 報 告

第41回業務運営会議	81
第42回業務運営会議	83
第15回通常理事会	85
 事務日誌抄	87
お知らせ	88

第41回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成28年10月28日(金)15:00～16:20
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 38名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

伊藤専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

神戸市みなと総局みなと振興部

開港150年担当課長 加納 尚剛 氏により

「神戸開港150年」～神戸港の歴史と記念イベントについて～
と題し、講演が行われた。

《第41回月例会講演資料》

「神戸開港150年」 ～神戸港の歴史と記念イベントについて～

講師 神戸市みなと総局 みなと振興部
開港150年担当課長 加納尚剛 氏

神戸海難防止研究会 第41回定例会
神戸開港150年

2016年10月28日
神戸市みなと総局 開港150年担当

神戸港の歴史をさかのぼると
嘉永6年(1853年)、ペリーが軍艦4隻で浦賀に来航し、鎖国を破り開港を要求。翌年、日米和親条約を締結

安政5年(1858年)、日米修好通商条約調印。箱館・神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港を約束

横浜開港以後、外国人殺傷事件等が続発
その後幕府は開港の5年延期を申し入れ、兵庫は慶応3年12月7日(1868年1月1日)に開港

開港当日の神戸港の図
明治4~5年頃の居留地海岸
明治4~5年頃の海岸繁榮之図(明治5~6年頃の海岸通)

神戸港の歴史をさかのぼると
神功皇后の征韓凱旋のとき「務古水門(むこのみなど)」に還り…(日本書紀 201年)

平安時代(9世紀頃)「大輪田泊(おおわだのどまり)」として修築
平清盛が日宋貿易の拠点として
大輪田泊を重視
泊(どまり)の前面に人工島、経ヶ島を福原京とともに築く

泊(どまり)の前面に人工島、経ヶ島を福原京とともに築く

神戸港の港湾整備の経緯
明治4~5年頃の居留地海岸
明治4~5年頃の海岸繁榮之図(明治5~6年頃の海岸通)

神戸港の港湾整備の経緯

昭和40年代の神戸港

日本初寄港のコンテナ専用船

昭和42年9月17日に日本に最初に入港したコンテナ専用船「ハワイアンプランター号」が横浜埠頭第三突堤に入港。従来の人員の半分で、かつ20倍の荷役能力の作業が行われ、関係者を驚かせた。

1973年の神戸港のコンテナ貨物量は、1位ニューヨーク、2位ロッテルダムに次ぐ世界3位

コンテナ船の大型化

神戸港に入港する大型コンテナ船

EBBA MAERSK

船名	EBBA MAERSK
長さ	397.2m
幅	50.4m
排水量	170,741GT(35,000TEU)
積載量	10,000TEU

MAERSK LINE

397.7m

神戸港の港湾整備の経緯

昭和2年～昭和42年～昭和45年～昭和60年～平成以降

海岸線延長：約122km
水域面積：約9,200ha
臨港地区面積：約2,100ha

→ コンテナ船の大型化に対応し、物流機能を充合いで整備

国際コンテナ戦略港湾～神戸港

港勢～

中国経済の躍進等により、五大港合計の平成27年取扱貨物実績は4.2%減少

厳しい状況の中、神戸港では「国際戦略港湾競争力強化対策事業」により、西日本諸港とのフィーダー輸送が取扱貨物量増加に寄与。慶災以降の最高値を記録

<平成27年 5大港取扱貨物量比較>

港名	外貿 個数	前年比	内貿 個数	前年比	外内貿合 個数	前年比	順位
神戸港	2,115	103.1%	592	104.7%	2,707	103.5%	3
東京港	4,150	94.5%	480	95.0%	4,629	94.6%	1
横浜港	2,514	96.2%	274	102.1%	2,787	96.8%	2
名古屋港	2,466	96.0%	165	97.4%	2,631	96.1%	4
大阪港	1,970	90.6%	252	95.3%	2,222	91.2%	5

単位:千TEU

国際コンテナ戦略港湾施策～競争力強化～

PORT OF KOBE
150th Anniversary

これまでの取り組み成果

事業実施後(平成28年5月時点) 95便／週

・高規格コンテナターミナルの整備
・22列免震高掛格构筑トリークレーン
・水深16mの耐震强化岸壁

ポートアイランド

PI地区

PI2期地区

大甲アイランド

RCG

RCT

RCU

第3号埠頭

MOL BRILLIANCE
PC-1007 (2016.7-)
EVIMAR (loop1)

ポートアイランド 4バース (G/C 8基)
大甲アイランド 2バース (G/C 3基)
⇒ 貨物航路に就航する積載能力10,000TEUを
超える大型船が寄港

客船の寄港地としての神戸港

PORT OF KOBE
150th Anniversary

国際コンテナ戦略港湾施策～集貨～

PORT OF KOBE
150th Anniversary

これまでの取り組み成果

事業実施前(平成26年4月時点) 68便／週

27便 港の賜物
新日本丸(1隻)

28年度の取り組み内容

場内・九洲等
西日本からの直航
新規開港の直航
共同利用
国際ドライカリア貨物の輸送

国際フェイダー利用促進事業
海外フェイダー登録船舶取扱事業
新規開港直航事業
航路サービスプロバイダ直航事業
ポートオーブン航路直航事業
高齢空コンテナ輸出促進事業
国際ドライカリア貨物の輸送

・4月20日(水) 大阪
参加人数: 143社 265名
・4月25日(月) 神戸
参加人数: 120社 238名
・4月27日(水) 東京港
参加人数: 238社 413名

客船の寄港地としての神戸港

PORT OF KOBE
150th Anniversary

2015年に入港した外国客船の概要

過去最高の42隻の外国客船が入港

クイーン・エリザベス
(旅客定員2,081名)

ダイヤモンド・プリンセス
(旅客定員2,706名)

シルバー・ディスカバラー
(旅客定員120名)

欧米小型・中型外国客船による瀬戸内クルーズが増加
(2014年: 4隻 → 2015年: 10隻)

セブンシーズ・
ボイジャー
(旅客定員700名)



神戸開港150年記念事業

2017年1月1日に開港150年を迎えるにあたり、市民とともに祝い、海、船、港への関心を深め、神戸港の、さらなる発展のスタートとする。

・神戸港は「神戸のまちの礎」であり、「神戸文化・産業の礎」
・神戸の礎である神戸港を「わたくしたちの港」として再認識



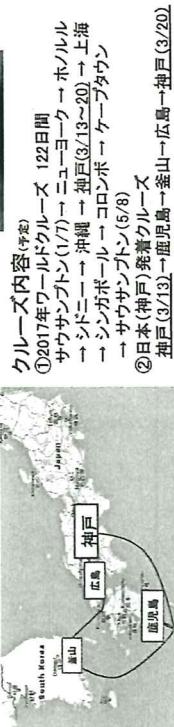
神戸開港150年記念事業

クイーン・エリザベス神戸発着クルーズ

世界で最も有名な大型客船が、150年を記念して、2017年3月に神戸を起点に発着クルーズを実施

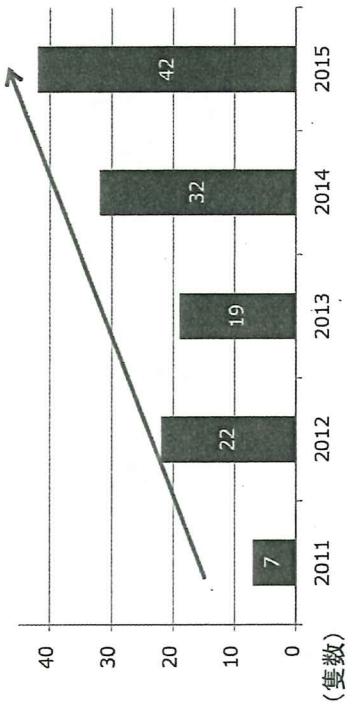


寄港日時:
2017年3月13日(月)6時～20時
2017年3月20日(月)6時～21時
着岸場所:
新港第4突堤(ポートターミナル)



客船の寄港地としての神戸港

神戸港への外国客船の入港隻数の推移



神戸開港150年記念事業

国際会議

神戸港の姉妹港・友好港や経済成長著しいアジア地域等の主要港20港の港湾管理者の招致を目指す



日 時: 平成29年2月
場 所: 神戸国際会議場
議題(案): ①アジア物流の展望 ②アジアクルーズの展開

招待予定港

【姉妹港・友好港】
シアトル港、ロッテルダム港、天津港

【アジア地域諸港】
上海港、香港港、仁川港、高雄港、ハワイアン港、ホーチミン港、レムチャバパン港、バンコク港、シンガポール港、ポートケラン港、タンジョンブリオク港、ヤンゴン港、マニラ港、スーピック港、シアヌーケビル港、チッタゴン港など

神戸開港150年記念事業

神戸開港150年記念式典・祝賀会

国や港を代表する方々を国内外から迎え、記念式典・祝賀会を実施

日 時：2017年5月
場 所：神戸ポートピアホテル
臨席希望：
神戸港の港運業界、船社、関連団体などを代表する
方々や国内外の船社を代表する方々を検討

内 容：
主催者挨拶、来賓式辞、港湾功労者顕彰、神戸港の
将来像の発表

神戸港の将来像の策定

概ね30年後の神戸港の目指すべき姿・将来像を策定

神戸開港150年記念事業

秋の「食」イベント

神戸港から全国に広まつたグルメを楽しめるイベント

神戸開港150年記念事業

150周年記念展示会

「食」を通じて、市民の皆さま、ご来場の皆さんに、開港が神戸のまち
の成り立ちの基礎となることを再認識していただき、「みんなのみ
なと」「にさらなる愛着をもつてもらう

開催日程：2017年9月（予定）
開催会場：メリケンパークなど、港への集客が期待できるエリア

神戸開港150年記念事業

海フェスタ

日本最大級の海の祭典「海フェスタ」に立候補

日 時：2017年7月中旬～8月上旬
場 所：メリケンパークを中心とした神戸港周辺
主なイベント（予定）：
記念式典、帆船フェスティバル（誘致中）、みなとまつり、
神戸港の見学、海の総合展・絵画展、シンボジウム、
開港150年版みなとこうべ海上花火大会

帆船フェスティバル（誘致中）

国内の帆船（日本丸・海王丸ほか）のほか、海外の
帆船（ナシエジュダ・コリア・バラダほか）も含め、
神戸港のイベントで、過去最高の10隻の誘致を目指す。

神戸開港150年記念事業

主な開港150周年イベント・関連イベント

①松方コレクション展

川崎造船所（現川崎重工業）、神戸新聞社の初代社長として神戸
発展の基礎を築いた松方幸次郎氏が収集し、戦前の金融恐慌で
国内外に散逸してしまった美術品の特別展示を、川崎重工設立
120周年記念及び神戸開港150年のブレイベントとして開催。

日 時：2016年9月～11月
場 所：神戸市立博物館
展示物：西洋絵画、浮世絵、歴史資料 など

神戸開港150年記念事業

150周年記念展示会

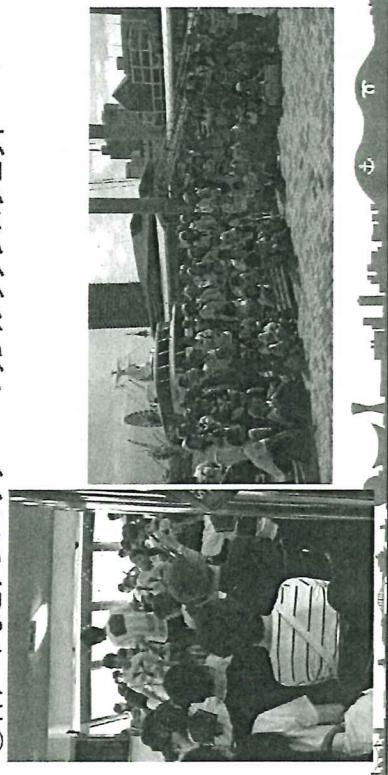
150周年記念展示会は、1851年ロンドン万国博覧会で
金賞を獲得した「オランダの風景」（オランダ風景）を
再現する大模型船（模型船）を主な展示物としている。
この模型船は、1851年ロンドン万国博覧会で金賞を獲得した
オランダの帆船である。模型船は、1851年ロンドン万国博覧会で
金賞を獲得したオランダの帆船である。



神戸開港150年記念事業

主な開港150年イベント・関連イベント

①神戸みなとアンバサダー マリンルックプロジェクト



主な開港150年イベント・関連イベント

②神戸開港150年音楽祭

神戸港の港運関係業界の方々が実行委員会を組織し、多彩な音楽を届ける音楽祭を、神戸開港に合わせて開催。



前夜祭

メインフェスティバル「記念式典」と「音楽祭」
・2017年5月20日(土)18:00～20:00
・メリケンパーク特設会場
・U-POP、K-POPによる前夜祭

・メリケンパーク特設会場
・著名な歌手による音楽祭

※両日とも無料公演。約15,000名/日を予定



神戸開港150年記念事業

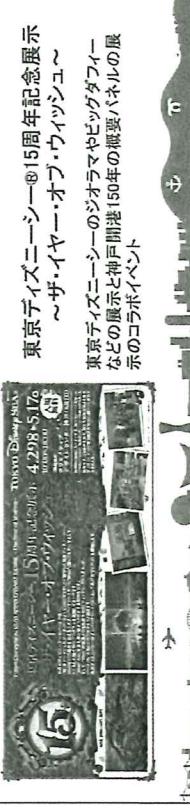
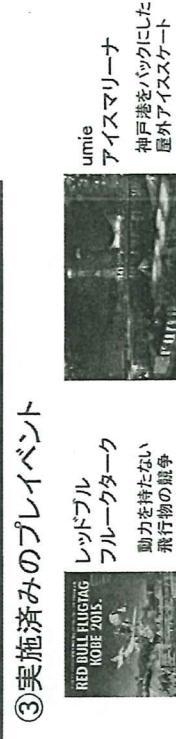
主な開港150年イベント・関連イベント

②神戸開港150年音楽祭



神戸開港150年記念事業

主な開港150年イベント・関連イベント



東京ディズニーシー®15周年記念展示
～ザ・イヤー・オブ・ヴィッシュ～

東京ディズニーシーのジオラマやビッグドライ
などの展示と神戸開港150年の概要ホテルの展
示のコラボイベント





都心・ウォーターフロントエリアの再開発

複合施設2015年12月17日
グランジオーブン
ホテル「神戸みなと温泉 道」
コンベンション「OCEANS GARDEN」

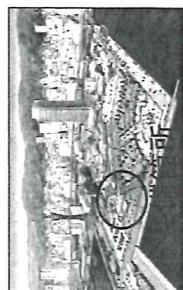


港湾労働者の総合福利厚生施設
「神戸ポートオーシス」の整備
※2017年6月末完成予定
食堂や多目的ベースなど、市民も利用可能

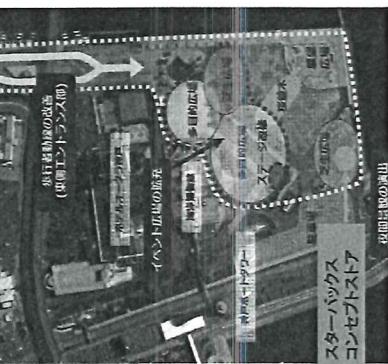


メリケンパーク再整備（新たな賑わい施設の導入）

店舗名：スターバックス コーヒー 神戸メリケンパーク店
住所：神戸市中央区波止場町46番地（メリケンパーク内）
■ 営業時間：（仮）8:00-22:00
■ 店舗面積：約360m²
■ 席数：130席予定（店内80席 テラス50
■ 開店日：2017年4月予定



都心・ウォーターフロントエリアの再開発



メリケンパークのリニューアル
・イベント広場の拡充
・歩行者導線の改善
・夜間景観の演出等



須磨海岸再整備事業
2015年11月より遅延化事業に着手し、
2017年の海開きには須磨駅前区間を供用開始



神戸開港150年記念事業

主な開港150年プレイベント・関連イベント



④民間企業とのコラボレーション



須磨海岸再整備事業

150th Anniversary
PORT OF KOBE

○子ども連れが安全・安心して楽しめる海岸づくり
・遠浅海岸整備

○四季を通じて憩い・集い・賑わう海岸づくり
・遊歩道整備、夜間景観づくり、トイレ整備など

海事分野の人材育成・確保

150th Anniversary
PORT OF KOBE

市内小学校3年生全員を対象にした神戸港見学

自分たちが住んでいるまちを授業で学ぶ小学校3年に、校外学習の一環として、港から自分たちが住んでいる神戸というまちを見学し、神戸港の重要性を学んでもらう。

～人材育成のこれまでの取り組み～

「神戸・みなと体験」事業
小中学生を対象とした神戸港見学ツアーや、海事関係事業者・団体との行政の協働で実施(2009～)

○ツアーの主な内容(例)

- 神戸港内見学(神戸港遊覧船)
- 神戸国際流通センター・コンテナターミナル見学
- 機船・クレーン操縦シミュレータ体験
- 神戸空港内及び海事博物館の見学
- 青果棲や加工棲の見学など

副教材割とがながい仕事の舞台・神戸港一の作成
神戸港が「果たす役割、海や地に關わる仕事を写真やイラストで分かり易く紹介した副教材を作成し、小中学校で活用

発行・編集：神戸海事地域人材育成連携協議会
(神戸市、国土交通省、海事関係事業者、団体で構成)

海事分野の人材育成・確保

150th Anniversary
PORT OF KOBE

港湾技能研修センター(港湾労働安定協会の運営) P12期へ

面積 2倍の6haへ拡大。
最新の機材を導入。
訓練コース 25～35へ
2017年度着工
2020年完成。

受講定員 大幅増
港湾業界の人材不足
解消への期待

新設される「港湾技能研修センター」のイメージ(日本港運協会提供)

ご清聴、ありがとうございました。

ホームページ・FACEBOOK
「神戸開港150年」の検索をよろしくお願ひします!!

第5回地域部会 兼 第42回月例会概要

1 日 時 平成28年11月25日(金)15:00~17:00

2 場 所 姫路市 姫路キヤッスルグランヴィリオホテル 3階 錦の間

3 出 席 者 53名

4 概 要

(1) 事業概要報告等

伊藤専務理事から事業概要報告等が行われた。

(2) 講 演

I 兵庫県立大学防災教育研究センター

准教授 馬場 美智子 氏により

「港の災害と防災」と題し、講演が行われた。

II 兵庫県中播磨県民センター姫路港管理事務所

副所長 横山 耕 氏により

「姫路港の歴史と今後の展望」(国際拠点港湾 姫路港)

と題し、講演が行われた。

《第5回地域部会 兼 第42回月例会講演資料》

「港の災害と防災」

講師 兵庫県立大学防災教育研究センター
准教授 馬場 美智子 氏

神戸海難防止研究会
「第5回地域部会兼第42回月例会」

港の災害と防災

2016年11月25日
兵庫県立大学防災教育研究センター
馬場 美智子

港の災害 —地震—

阪神・淡路大震災による被害

- 東西20kmに及ぶ神戸港は壊滅的な状況
- 係留施設では、大型公共岸壁239バースに加え、延べ23kmにのぼる物揚場の大部分が被災し、背後に立地する上屋、野積場、倉庫もほとんどが使用不能
- 外貿貨物の7割を取扱っていた21のコンテナターミナルはすべて破壊され、倒壊したガントリークレーンになぎ倒されたコンテナが積み木のように散乱
- 海岸保全施設である護岸の崩壊、地盤の水没によって防潮機能を喪失
- 港湾の被害総額は埋立地も含めて約1兆500億円

阪神・淡路大震災による被害

- 耐震強化岸壁の3バースを除き、ポートアイランド地区、六甲アイランド地区のコンテナ埠頭など大半の施設が被災、使用不可能
- 防波堤は、最大約2m沈下し、防波機能が著しく低下

耐震強化岸壁：大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資、避難者、支援者等の海上輸送を確保するため、また、被災地域及び域外の経済社会活動に及ぼす影響を最小限に抑えるため、全国の主要港湾において通常の岸壁より耐震性を強化して建設された岸壁



六甲アイランドのコンテナターミナルでは巨大なクレーンが倒壊
神戸港の原点とも言える新港地区突堤の岸壁も崩壊した
(国土交通省 近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

地震直後の港の役割

- ①緊急海上ルートの確保
 - ・港内安全確保
 - ・緊急物資、人員輸送・受入れ
 - ・水供給の確保等
- ②市街地復興のための暫定的、短期的土地利用
 - ・緊急物資の保管用地
 - ・緊急ヘリポート用地
 - ・仮設住宅用地
- ③瓦礫等の処分
 - ・瓦礫等の処分場所の確保
 - ・瓦礫等の積出基地の整備

港湾施設の耐震化

耐震バース(岸壁) 配置状況



港の災害 一台風

台風の特徴

- 熱帯で発生する低気圧（熱帯性低気圧）のうち北西太平洋で発生するものの総称
- 日本では熱帯性低気圧の最大風速が17m/sを越えると台風と呼ばれる
- 海面水温27°Cを越える海域で発生し易い。
- 熱帯海域においても、ペルー沖のように海水温が低い海域では熱帯性低気圧は発生しない。

低気圧とは

- 低気圧：周囲よりも気圧が低い所
- 低気圧は中心部分の気圧が低く、周辺に行くに従い気圧が高くなる。
- よって、低気圧の区域内では、気圧の高い周囲の空気が中心に向かって吹き込み、また中心に向かって吹き込んだ空気は収束して上昇気流となる。
- 空気の上昇により、断熱冷却が起り、上空に雲を生じ雨や雪を降らせる。このため、低気圧内ではふつう天気は悪くなる。

低気圧の特徴

- 空気が反時計回りに中心へ向かって吹き込む（北半球）。
- 中心に近づくほど気圧は低い。
- 上昇気流を生じる。
- 低気圧の圏内では天気は悪い。

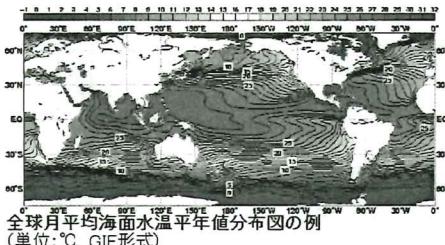
台風のエネルギー源は？

- 太陽の熱と水蒸気
- 太陽熱で水蒸気を含む空気が膨張したり冷やされたりして雲が発生し、風がおきて台風へと発達
- 海水温の高い、つまり、水蒸気を発生しやすい海域は、常に台風に燃料を供給
- 本土に上陸すると燃料となる水蒸気が断たれることから台風はやがてその勢力を弱める

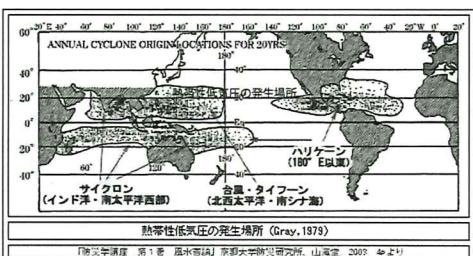
台風の発生場所

- ・南半球から赤道を越えてくる「南東貿易風」と、北緯10~20度付近に吹く「北東貿易風」がぶつかる「熱帯収束帯」の雲の帶の中で雲の渦が発達
- ・熱帯収束帯は、夏でも冬でも水温が高く、一年中上昇気流が生じ、その中でも巨大な積乱雲が発生しては消滅する場所

海面水温



熱帯性低気圧の発生場所と呼び名

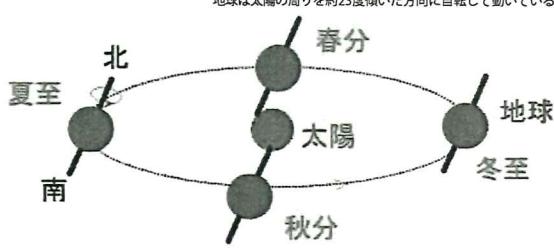


台風は何故、渦を巻くか？

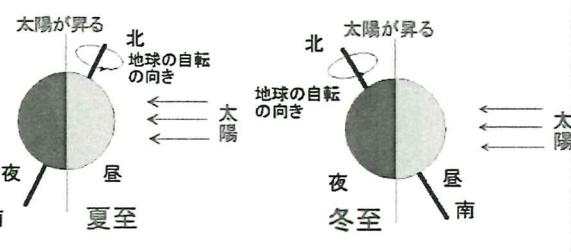
- ・地球が自転しているから
- ・台風は空気が渦を巻きながら上昇する。地球が自転していないと空気は渦を巻かずに風がまっすぐに吹き込んでそのまま上昇してしまう。地球が自転していることで、渦を巻く台風になる。（コリオリの法則）

地球の自転

地球は太陽の周りを約23度傾いた方向に自転して動いている



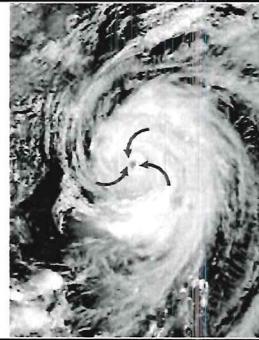
地球の自転と太陽光



気圧の風の向き

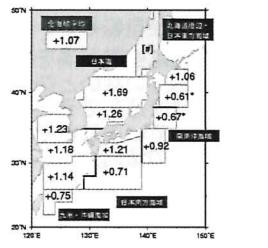


出典：気象庁 (<http://www.jma.go.jp/jmaweb/chmks/column/yousou/hajip.html>)



海面水温の長期変化傾向（日本近海）

- ・日本近海における、2015年までのおよそ100年間にわたる海域平均海面水温（年平均）の上昇率は、+1.07°C/100年。この上昇率は、世界全体で平均した海面水温の上昇率（+0.52°C/100年）よりも大きく、日本の気温の上昇率（+1.16°C/100年）と同程度の値。
- ・日本の気温は春季の昇温が大きい傾向があるが、日本近海の海域平均海面水温は冬季または秋季の昇温が大きくなっている。



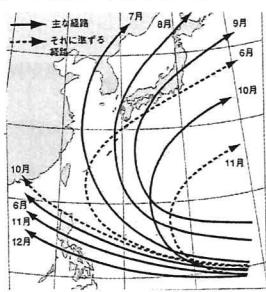
出典：気象庁 (http://www.data.jma.go.jp/gmd/kayou/data/hindan/a_1/japan_warm/japan_warm.html)

台風の進路を決める要因

- ・太平洋高気圧
- ・偏西風
- ・貿易風

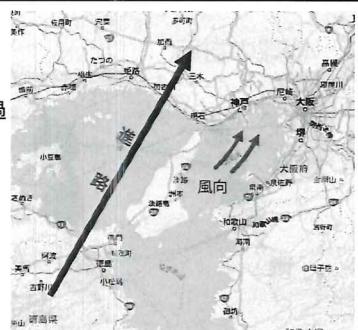


台風の月別の主な進路



出典：山口県「台風学入門」山と渓谷社

神戸港の西側を台風が通過する場合の風向き



台風の大きさと強さ

強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上



港の災害 一高潮一

高潮

- ・台風や発達した低気圧に伴って、海岸で海面が異常に高くなる現象
- ・高潮が発生すると海水が堤防を越えてしまったり、台風によつて発生した高い波は越波するようになり、背後地が浸水する可能性が高くなる

高潮による被害



出典：国士亢済省 (http://www.mlit.go.jp/mitsukai/pamphlet/mitsukai_kaisandokutsu/sakaiho/sakaiho_04-0.htm)

ハリケーンカトリーナによる被害



ハリケーンカトリーナによる被害



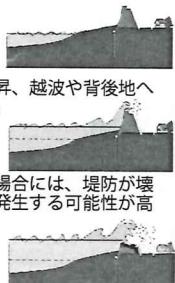
ハリケーンカトリーナによる被害



台風に伴う高波・高潮の発生

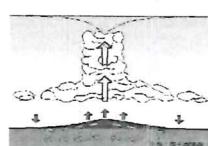
- 台風時に強い風が長く吹き続け、しかも吹く距離が長いほど、波が累積して、波高が増大。この高い波浪が沖から海岸に打ち寄せ、海面が一層高くなる。
- 台風のコースの右側では風が特に強まり、波が大きくなる。湾などの地形では、波の逃げ場がなく、湾口の向きと台風コースが一致すると、一層高くなる。
- 一般的には左回りの風が吹く北半球では、対象海域の西側を台風が北上すると、南向きに口を持つ湾では、湾奥に向けて風が吹くことになり、吹き寄せ効果により大きな高潮が発生する。
- 高潮の高さは、台風の進行方向と湾の向き、台風の強さ、海域が相互に影響する。

- 砂浜や堤防によって、普段は安全。



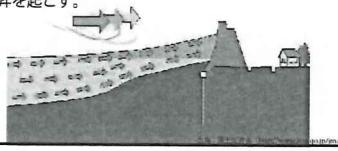
気圧低下による海面の吸い上げ効果

- 風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、周囲の空気は海面をおしつけ、中心付近の空気が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇。
- 気圧が1ヘクトパスカル(hPa)低くなると、海面は約1センチメートル上昇



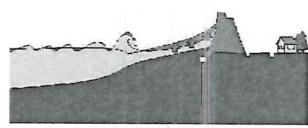
風による吹き寄せ効果

- 台風に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇
- 台風に伴う強い風により、海面に強いせん断応力が作用、波浪や流れを発生。風から波浪へと渡されたエネルギーは碎波（波が砕けて流れへ運動形態を変えること）により流れへと変換。風、波、流間のエネルギー移動により海水が流動。陸地などの境界があればせき止められて水位上昇を起こす。



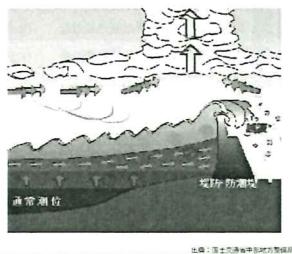
波浪による海面上昇

- 波が海岸に近づいて砕けると、多量の海水が岸に運ばれ、沖に急速に戻ることができず、岸側に溜まるようになり、海面が上昇することになる。波が大きいほど、波浪による海面上昇も大きくなる。



相乗的な効果による高潮の巨大化

- ・気圧低下による吸い上げ効果
- ・風による吹き寄せ効果



出典：国土交通省中央防災会議

高潮の大きさと地形効果

- ・台風などによる強い旋風の場における風と海水運動（波、流れ）との相互作用による動力学的な挙動を示すことから、流れに影響を与える海域の地形効果が極めて大きい。
- ・閉じられた湾の場合では湾奥に向かって幅が狭くなり、水深が浅くなる湾では流れが束ねし吹き寄せ効果が増大する。
- ・水深が浅いほど、風の吹き寄せ作用がよく働き、高潮が発達しやすくなる。
- ・外洋に面した海域でも、大陸棚の広さによって発生する高潮の大きさが大きく異なる。

台風の進路と高潮の地域特性

- ・台風は、地上付近では上から見て反時計周りに強い風が吹きこんでいる（北半球にある日本の場合）。台風の進行方向に向かって右の半円では、台風の移動方向と風向きが同じであるため風が強くなる。
- ・そのため、湾口が南側に面し、湾の軸が台風の進路と一致する場合には、高潮が生じやすくなる。

高潮が発生しやすい地域

東京湾・伊勢湾・大阪湾・有明海など南に湾口が向き、台風の進路に沿って湾形状が伸びた湾は、高潮の起こりやすい条件を備え、わが国で最も危険な地域といえる。また、高潮の発生頻度は、太平洋側の湾内で圧倒的に多く、日本海側では少なくなっているが、発生しないということではない。

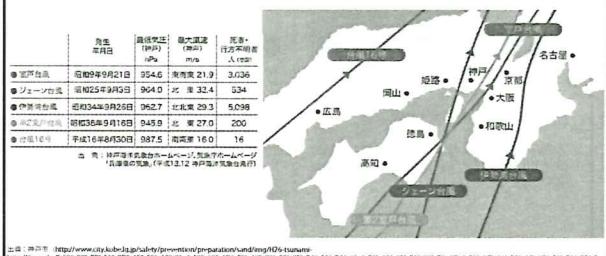


出典：防災情報網 <http://www.mlit.go.jp/meteor/pmp/b4/reikaisan/sankin/kaisaku/0/ko-han02.htm>

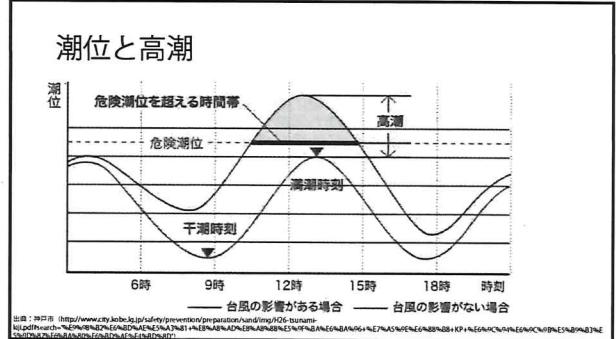
過去に起きた高潮被害の件数											
年月日	豪雨災害地名	高潮高さ(～)			人口影響(人)			被害影響(戸)			総件数
		TP上	高潮高さ(～)	最大潮位	死者	負傷者	行方不明者	家屋	車両	船隻	
1977/03	東京港	3.9	2.0	2.7	1,527	202	147	36,893	21,274	2,480	1
1979/12	有明海	3.9	1.2	0.9	357	161	96	1,020	—	798	1
1980/03	有明海	3.1	0.8	0.6	1,062	14,084	1,034	31,771	16,275	1,277	1
1982/07	有明海	3.9	1.7	1.7	307	1,436	107	21,252	16,218	2,246	1
1983/09	有明海	3.9	1.7	1.7	1,069	1,069	107	21,252	16,218	2,246	1
1984/03	有明海	2.7	1.9	2.4	460	29,062	118	11,740	10,795	2,148	1
1985/11	八代海	2.3	1.6	1.6	532	24,444	278	29,527	42,048	3,170	1
1986/03	伊勢湾	2.1	1.2	1.0	361	22,916	16	5,645	17,947	2,051	1
1986/05	伊勢湾	3.4	2.0	2.4	4,617	10,017	418	31,047	13,530	1,750	1
1987/09	有明海	2.7	1.6	1.6	1,069	10,795	15	11,525	10,424	1,526	1
1988/03	東京港	3.1	2.1	2.4	172	1,069	15	1,020	1,020	107	1
1989/03	有明海	3.3	0.8	1.0	3	19	9	9	564	—	1
1990/03	有明海	3.3	0.8	1.0	3	19	9	9	564	—	1
1991/01	八代海	3.2	1.2	1.2	216	12	10	9	52	—	1

出典：国土交通省中央防災会議
※本表は、過去に起きた高潮被害の件数を示すもので、高潮による直接的死傷者や被災者等を含むものではありません。
出典：防災情報網 <http://www.mlit.go.jp/meteor/pmp/b4/reikaisan/sankin/kaisaku/0/ko-han02.htm>

過去の高潮被害



出典：防災情報網 <http://www.mlit.go.jp/meteor/pmp/b4/reikaisan/sankin/kaisaku/0/ko-han02.htm>

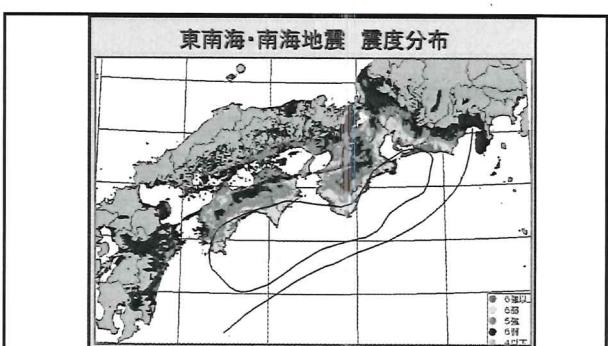
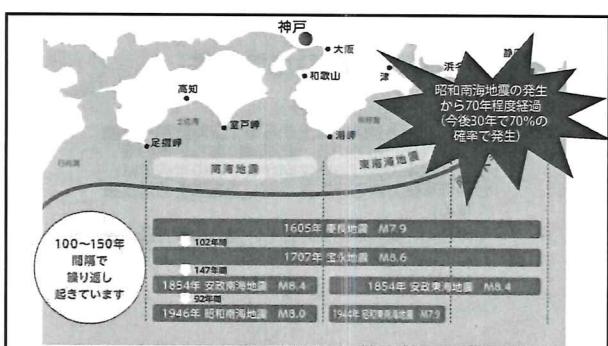
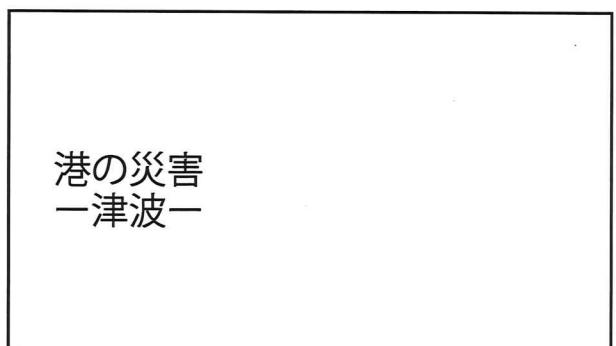


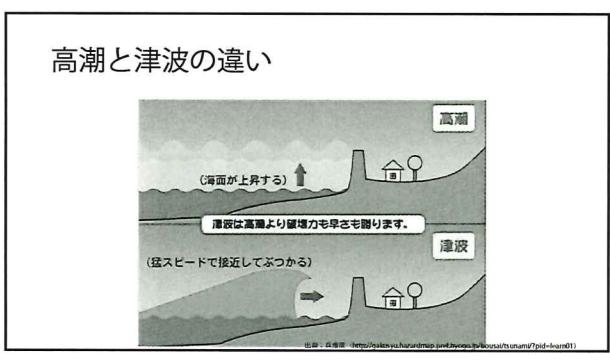
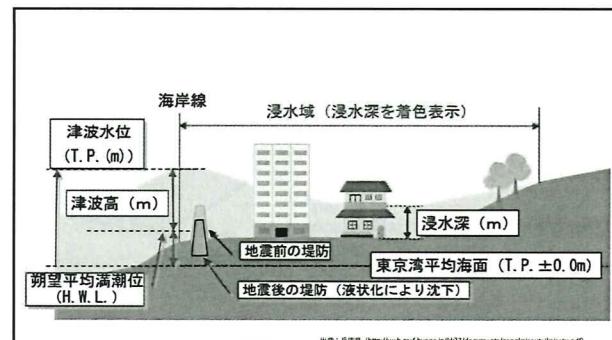
神戸港の過去の潮位

防潮胸壁天端高＝ 設計高潮位（最高潮位、H.H.W.L）3.70 +波高+余裕（0.10～0.2）	
高	T.P+2.80 高潮防潮堤整備基準高 (K.P+3.70)
中	T.P+2.30 第2室戸台風最高潮位 (K.P+3.20)
低	T.P+1.94 ジェーン台風最高潮位 (K.P+2.84)
	T.P+1.77 平成16年台風16号最高潮位 (K.P+2.67)
T.P±0.00 東京湾平均海面 (K.P±0.90)	
低	T.P-0.90 神戸港修理工事基準面 (K.P±0.00)

(m)

出典：神戸市 <http://www.city.kobe.lg.jp/safety/prevention/preparation/and/img/tide-tsunami.html>





港を災害から守る施設

施策

- ・防御対策（ハード中心施策）
- ・避難支援対策（ソフト中心施策）

防御施設

防潮堤 護岸堤 護岸・



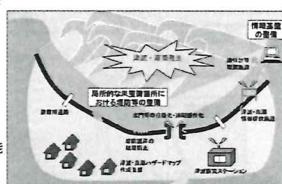
出典：国土交通省 http://www.mlit.go.jp/mitsumon/pamphlet/jrve_kanjan/kankendokutsu/takushuu/totsu/04_0.htm

津波・高潮危機管理対策緊急事業

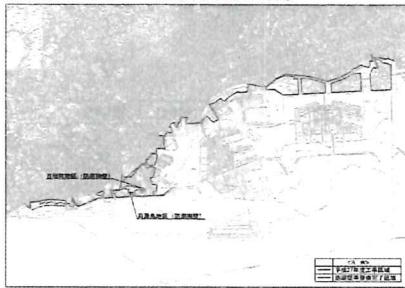
目的：既存の海岸保全施設の緊急的な防災機能の確保及び避難対策を促進することにより、津波又は高潮発生時ににおける人命の優先的な防護を推進

事業概要：地方が作成する津波・高潮危機管理対策緊急事業計画に基づき、5年以内に以下の対策を総合的に実施

- (1) 水門等の自動化・遠隔操作化及び改修等
- (2) 堤防、護岸等海岸保全施設の破壊防止、局所的な堤防等未整備箇所における堤防等の整備、排水工の整備
- (3) 津波・高潮ハザードマップの作成支援（浸水想定区域調査、耐震調査、避難路調査、耐浪調査、及び排水性能調査）
- (4) 津波・高潮に関する観測施設、情報提供施設等情報基盤の整備
- (5) 津波防災ステーションの整備
- (6) 避難対策としての管理用通路の整備
- (7) 避難用道路の設置（堤防スロープ等）



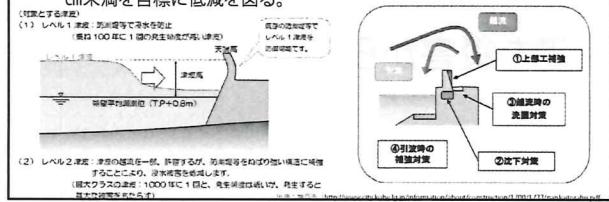
高潮対策工事：防潮堤整備



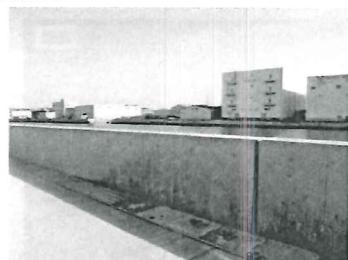
出典：国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/kankai/investigation/taisaku/01/20160715/f101.html>

神戸市の津波対策

- 既存の防潮堤等をねばり強い構造に補強することで、既成市街地の人家部及び都心部において浸水深を人命に影響がない30cm未満を目指す。

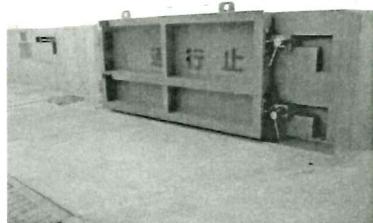


防潮胸壁

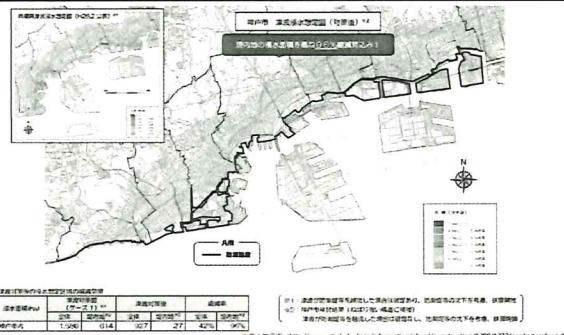


兵庫区吉田町地区

防潮鉄扉（陸閘）



兵庫区吉田町地区



平成16年から平成23年までの浸水実績区域図



平成16年度
国道2号 メリケン波止場前交差点の状況

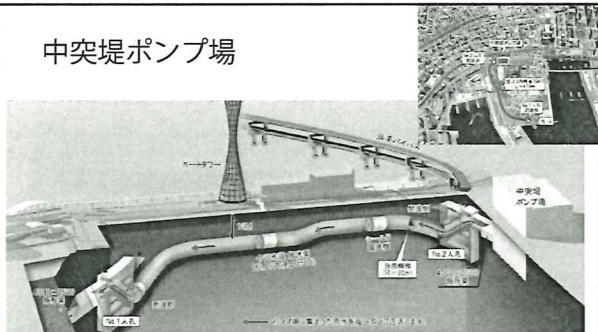


平成16年度
国道2号 海岸通5丁目付近の状況

浸水・高潮対策事業



中突堤ポンプ場



避難

気象庁が発表する気象情報

■台風情報：台風の中心位置、気圧、最大風速、進路予想、高潮など、台風の状況に関する情報

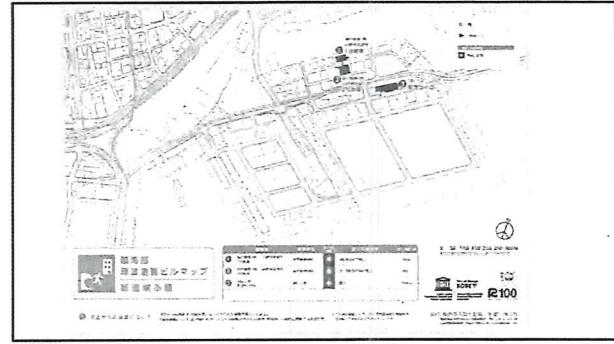
■高潮注意報・警報

- ①高潮注意報：高潮の発生により災害がおこる恐れがある場合に発表
- ②高潮警報：高潮の発生により重大な災害がおこる恐れがある場合に発表

市町村長等が出す避難情報

①避難勧告：避難勧告が出たときには、重大な被害が生じる恐れがありますので、直ちに避難。

②避難指示：避難指示が出たときには、重大な被害がさし迫っており、非常に危険な状態になりますので、避難していない人は至急避難。



災害時の行動

- ・正確な情報を取得（情報入手の方法を事前に準備）
- ・安全な場所を確認（事前に避難場所情報を入手）
- ・すぐに避難開始

『第5回地域部会 兼 第42回月例会講演資料』

「姫路港の歴史と今後の展望」

講師 兵庫県中播磨県民センター
姫路港管理事務所

副所長 横山 耕氏

話題

1. 姫路港のあらまし
2. 姫路港の動き
3. 姫路港の将来への取り組み

2

(1) 姫路港の範囲

1. 姫路港のあらまし
- (1) 姫路港の範囲
- (2) 姫路港の成り立ち
- (3) 姫路港各地区の現況
- (4) 日本での立ち位置
- (5) 姫路港を支える機関

4

姫路港の歴史と今後の展望
(国際拠点港湾 姫路港)

2016年11月25日

兵庫県中播磨県民センター
姫路港管理事務所

姫路港の範囲

- 港湾区域
東西に約18km（たつの市御津町～姫路市大塩町）
水域面積は約7,700ha
 - R250号以南の大半に、港に関係する企業が立地
- 
- たつの市
西浜川
八瀬川
天王川
多聞川
大豐川
中川
高砂市
姫路管理事務所
東部工業港区
南部工業港区
網干港区
広畠港区
飾磨港区
東部工業港区
港湾区域

—24—

姫路港の海岸（保全区域）



6

姫路港の成り立ち（太古から）

- 太古 しきまえ
「思賀麻江」と称し、
遣唐使船も停泊し賑わう
しかまづ
花山天皇幸、「飾万津」と改称
- 985 飾磨港と改称
- 1889 (M2) 飾磨港
1931 (S6) 主要港湾に編入
- 1935 (S10) 飾磨港が第2種重要港湾に選定される
- 1951 (S26) 飾磨・広畠・網干3港を包含し、姫路港
として重要港湾に指定される
入出港の指定港となる

7

(2) 姫路港の成り立ち

8

姫路港の成り立ち（国際港へ）

1953 (S28) 港湾区域の認可により、姫路港が設立

1959 (S34) 關税法の開港の指定
姫路港港湾計画の新規策定

1967 (S42) 特定重要港湾の指定
植物防疫港の指定

2009 (H21) 姫路港開港50周年記念事業開催

2011 (H23) 国際拠点港湾の指定

2019 (H31) 姫路港開港60周年

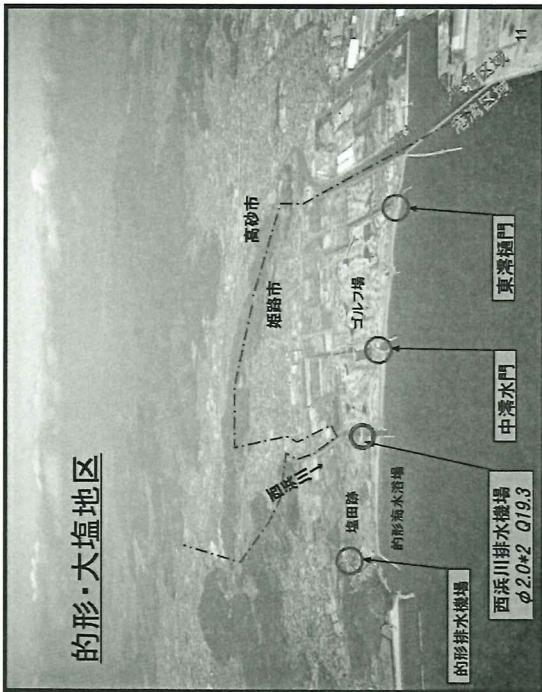
9

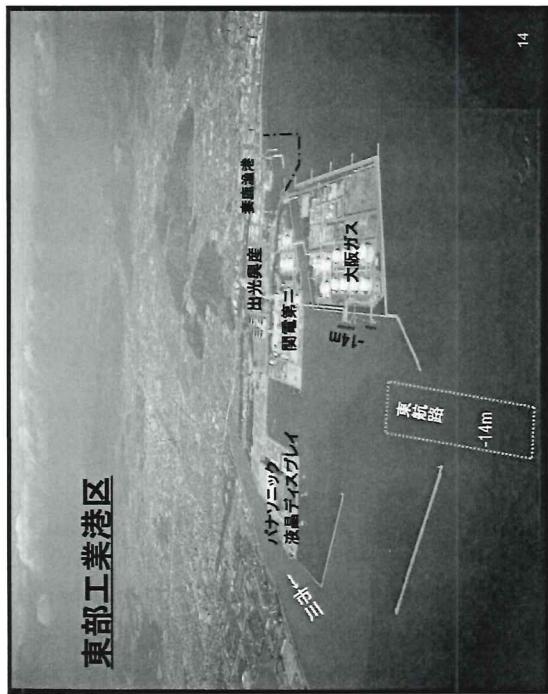
(3) 姫路港各地区の現況

10



的形・大塩地区





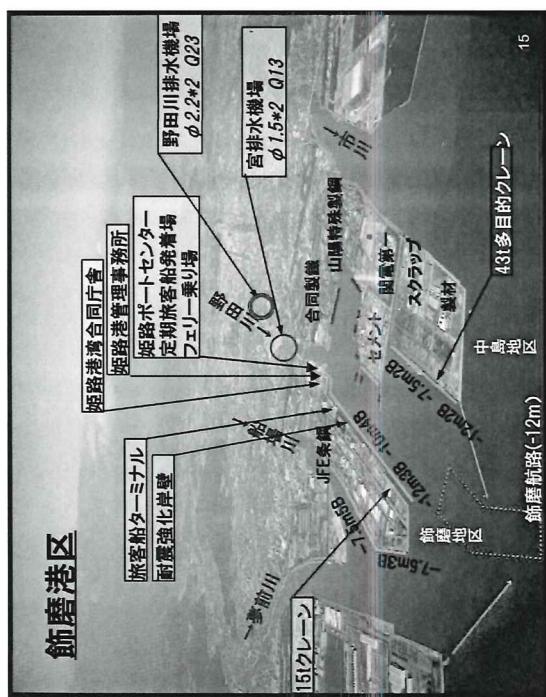
東部工業港區



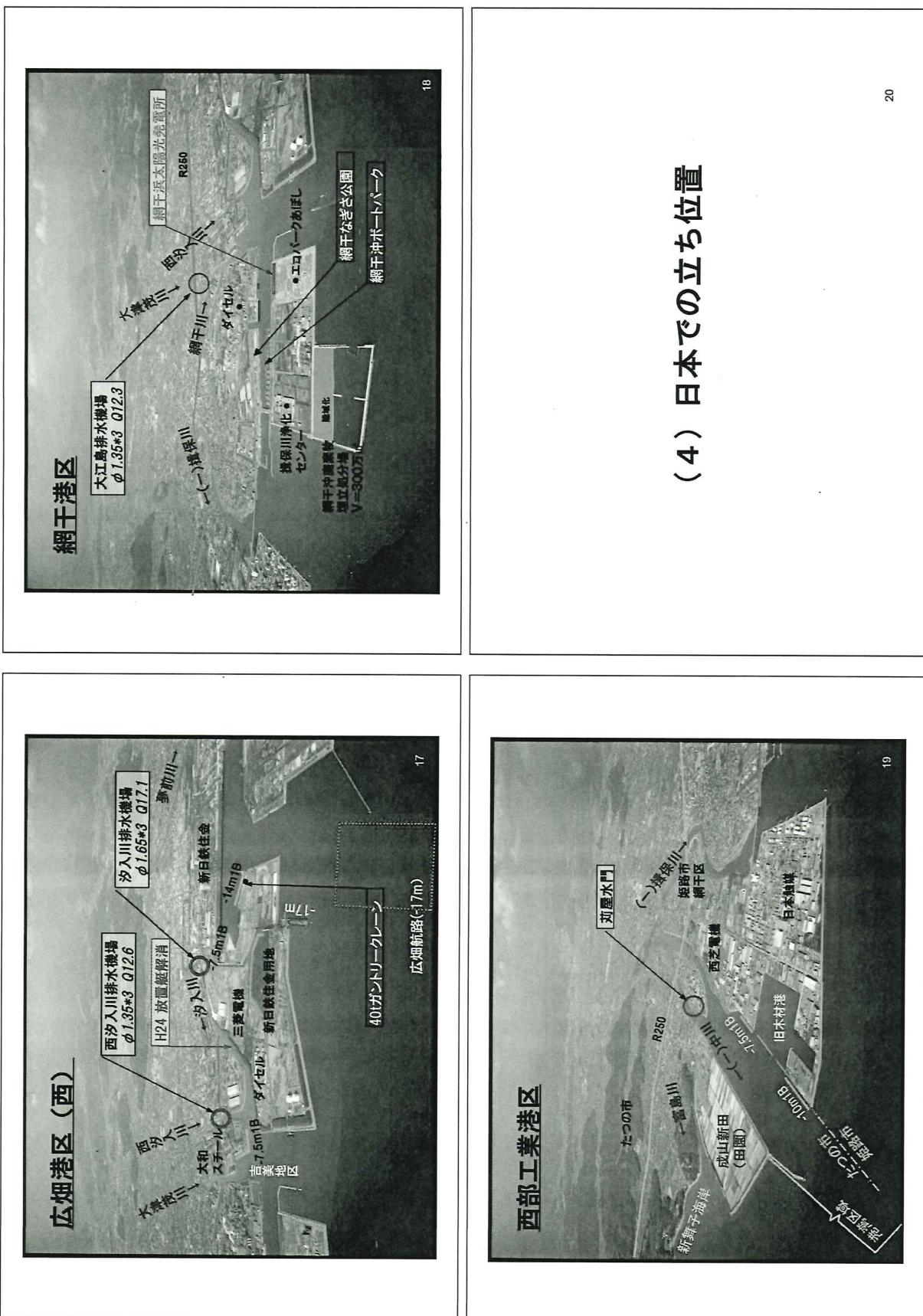
廣州港區（東）



白浜・八家地区



區港磨飾



(4) 日本での立ち位置

日本での立ち位置

・姫路港は国際拠点港湾
　　国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾である
　　国際戦略港湾以外の港湾

港格	港湾数（カッコ内は県内港湾の数）				計
	都道府県管理	市町村管理	港務局管理	一部事務組合管理	
国際戦略港湾	1	4 (1)	0	0	5 (1)
国際拠点港湾	11 (1)	4	0	3	18 (1)
重要港湾	82 (2)	16	1	3	102 (2)
地方港湾	504 (25)	304 (1)	0	0	808 (26)
計	598 (28)	328 (2)	1 (0)	6 (0)	933 (30)

注:56条港湾を除く H28.4.1現在 国土交通省港湾局資料より

21

(5) 姫路港を支える機関

22

姫路港を支える機関（港所在地の官公署）

機関名	主な業務	備考
神戸税關 姫路税關支署	関税等の徴収、密輸取締り、保税 地域の管理など	
大阪入国管理局神戸支局 姫路港出張所	入出国管理	法務省
神戸植物防疫所 姫路出張所	輸出入・植物の検査・輸入の禁止・ 制限、国内移動規制	農林水産省
神戸運輸監理部 姫路海事事務所	海事行政（海運・船舶・船員）	国土交通省
第5管区海上保安本部 姫路海上保安部 中播磨県民センター 姫路港管理事務所	海上交通安全、海洋汚染防止、海上 上の消防 姫路港公共施設の管理・運営	国土交通省 海上保安庁 兵庫県

—28—

姫路港を支える機関（その他の官公署）

機関名	主な業務	備考
近畿地方整備局 神戸港湾事務所	飾磨航路直轄工事の実施他	国土交通省 神戸市所在
近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	一級河川揖保川の改修・管理他	国土交通省 姫路市所在
兵庫県警姫路警察署	警察業務	兵庫県公安委員会
網干警察署	飾磨警察署	
姫路市消防局	消防業務	姫路市
網干消防署		
姫路市産業局 商工労働部産業振興課	海運業の振興、港湾の振興、 姫路みなとドーム他	姫路市
兵庫県土整備部 土木局港湾課	県管理港湾及び海岸の総合管理	兵庫県

23

24

2. 姫路港の働き

- (1) 物流・産業機能（取扱貨物量や貿易額）
- (2) 交流機能（定期旅客船航路・クルーズ船）
- (3) 防災機能（高潮、津波等への備え）
- (4) 姫路市への経済効果

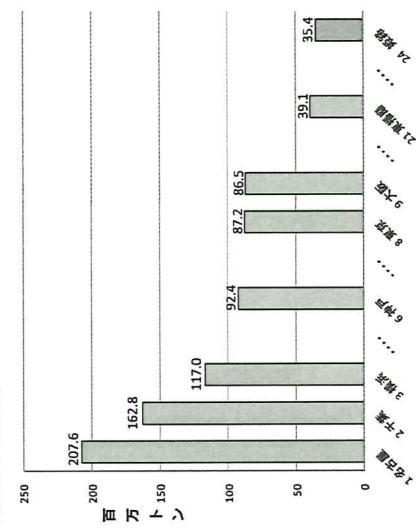
25

(1) 物流・産業機能（取扱貨物量や貿易額）

- (1) 物流・産業機能（定期旅客船航路・クルーズ船）
- (2) 交流機能（定期旅客船航路・クルーズ船）
- (3) 防災機能（高潮、津波等への備え）
- (4) 姫路市への経済効果

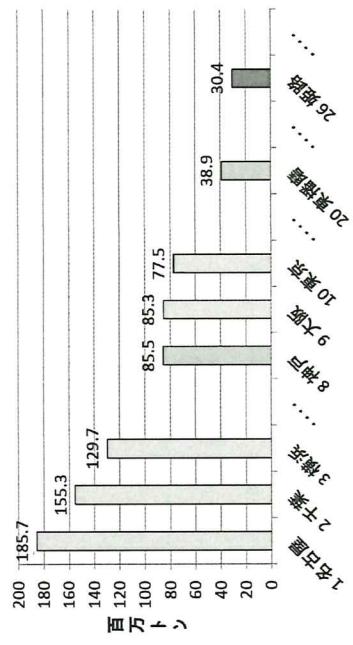
26

取扱貨物量 (H26・トン数ベース全国ランキング)



27

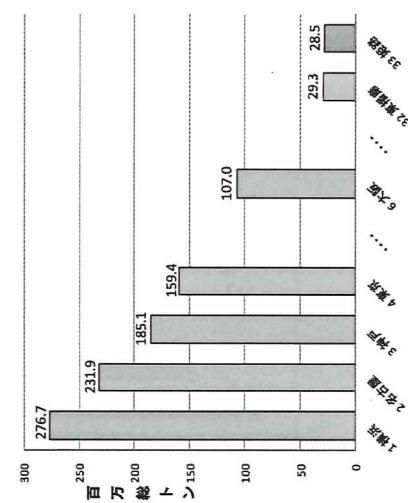
取扱貨物量 (H22・トン数ベース全国ランキング)



H22港湾統計 国土交通省

入港船舶

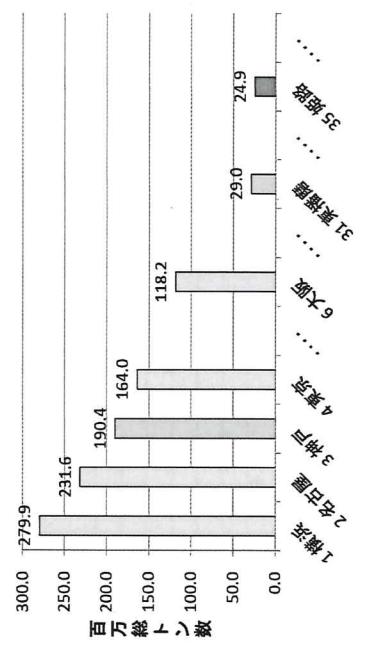
(H26・トン数ベース全国ランキング)



H26港湾統計 国土交通省 29

入港船舶

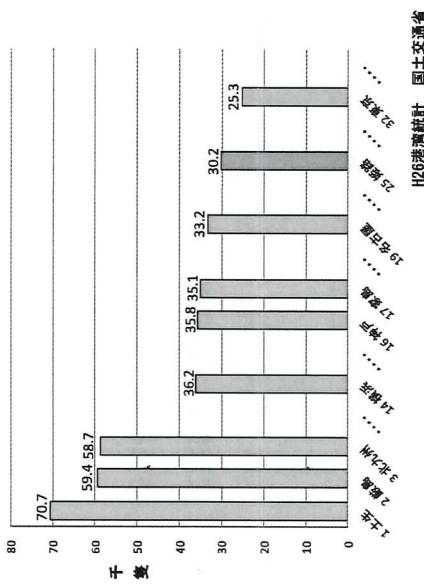
(H22・トン数ベース全国ランキング)



H22港湾統計 国土交通省 30

入港船舶

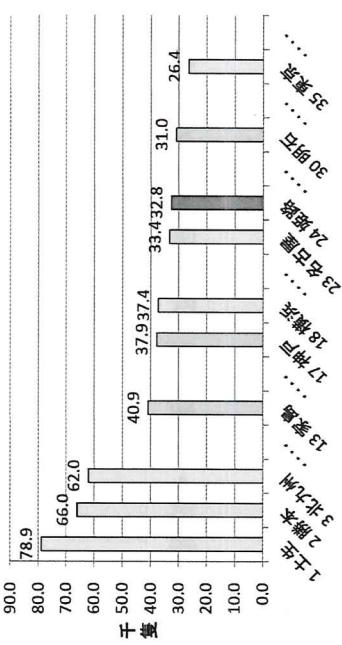
(H22・隻数ベース全国ランキング)



31

入港船舶

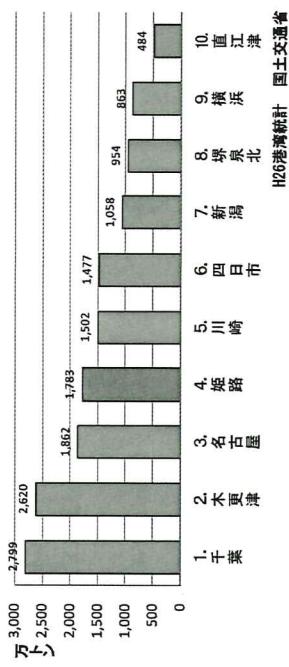
(H22・隻数ベース全国ランキング)



32

LNG取扱貨物量

(H26年・全国10傑)

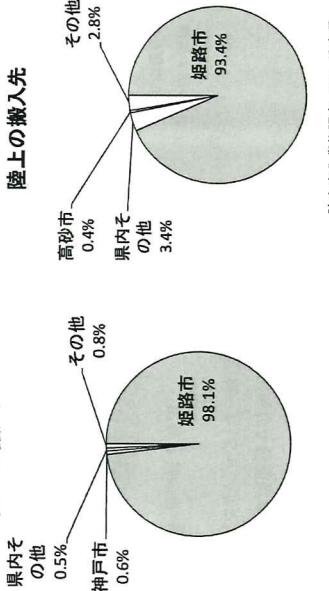


貨物の陸上ででの出入り

(H18調査)

・ほとんどが姫路市内でのやりとり

陸上の搬入元



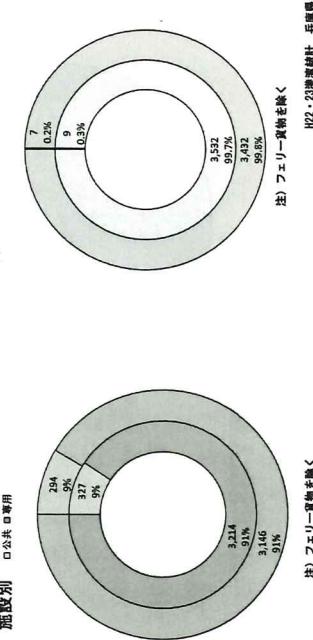
その他

(H22及びH23・トン数ベース)

・(企業専用施設での利用が大半

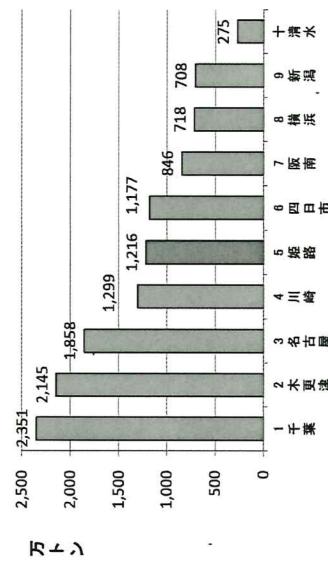
・ほとんどがハブルク(ばら物)貨物

施設別 口公共口専用



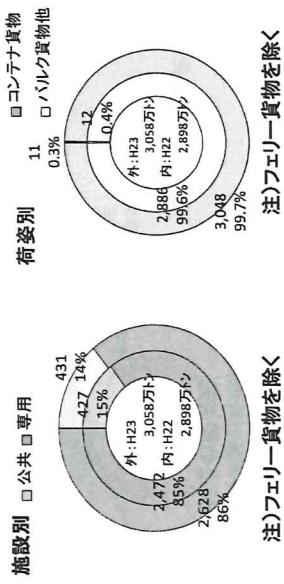
LNG取扱貨物量

(H22年・全国10傑)



その他 (H22及びH23年・トン数ベース)

・(企業専用施設での利用が大半
・ほとんどがハルク((ばら物)貨物



H22・23港湾統計・兵庫県港湾課 37

姫路港の貿易額

H27年の輸出入額

7,863億円

対前年比19.4%減
(188億円減)

(H) プラスチック
40,916

5%

(入) LNG
1,145

6.1%

(入) 石炭
90,259

11%

(入) 鉛銅
130,316

17%

貿易概況 H27年分 神戸税關HPより

38

姫路港の貿易額

H24年分の輸出入額
7,080億円

対前年比5.3%増
(356億円増)

(出) プラスチック
363.95

5%

(出) その他
105.32

2%

(出) 煤炭
256.15

4%

(入) その他
114.76

16%

(入) 石炭
512.14

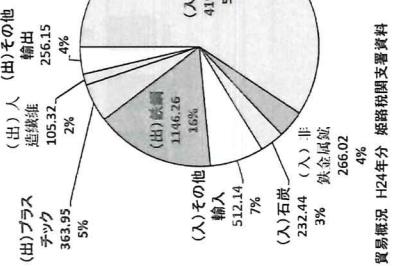
7%

(入) 鉛銅
232.44

3%

(入) 非鉄金属
265.02

4%



貿易概況 H24年分 姫路税關支署資料 39

姫路港の輸出相手国(地域)

H27年分 輸出額 2,150億円

1位 中国、2位 韓国、3位 タイ
3国で36%、H26同順



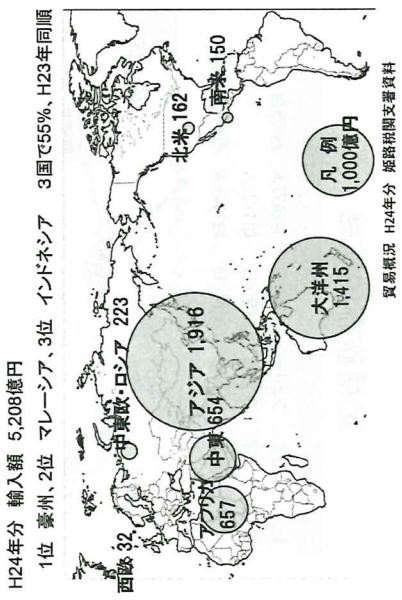
貿易概況 H27年分 神戸税關HP

40

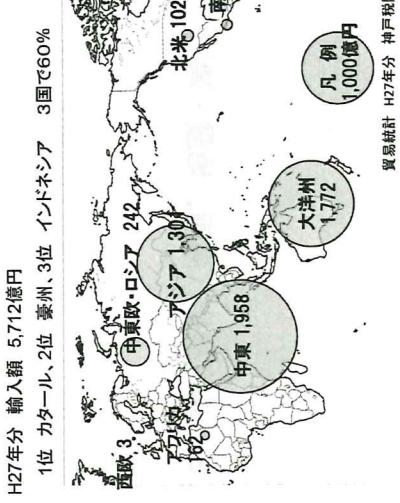
姫路港の輸出相手国(地域)



姫路港の輸入相手国(地域)



姫路港の輸入相手国(地域)

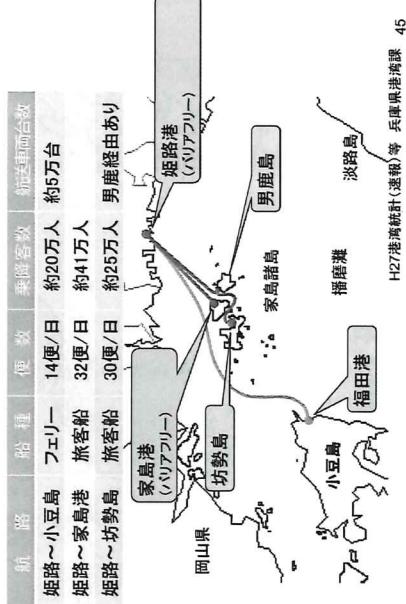


(2) 交流機能（定期旅客船航路・クルーズ船）

42

43

定期旅客船航路



クルーズ船 (H24～H28年)

《ふじ丸》			
H24年8月22日	小笠原へ	H26年8月20日	八丈島へ
姫路～家島港	旅客船	H25年5月2日	屋久島へ
姫路～坊勢島	旅客船	(船の大きさ	23,235トン)
姫路～小豆島	フェリー	H27年4月4日	尾道へ
姫路～家島港	旅客船	H27年8月20日	上五島へ
姫路～坊勢島	旅客船	H28年8月23日	種子島へ
		(船の大きさ	22,472トン)

《ぱしふいくびーなす》			
H26年8月21日	別府港へ	H26年3月13日	名古屋港へ
家島諸島		H26年11月20日	横浜港から
(船の大きさ	26,594トン)	(船の大きさ	50,142トン)

46

クルーズ船 (H24～H28年)

《ハンセアティック号》			
H24年6月8日	10年振り入港	H28年5月8日	広島港へ

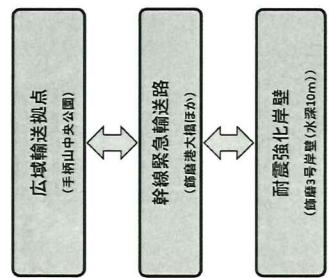
(船の大きさ 8,378トン) (船の大きさ 10,700トン)

(3) 防災機能（高潮、地震・津波への備え）

47

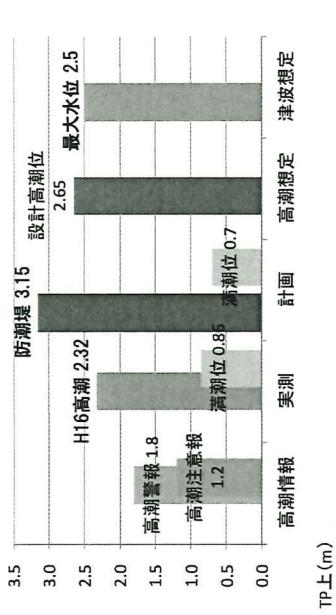
大規模災害時対応

(物資搬入・避難)



49

高潮・津波への対応



50

老朽化・防災減災対策

ひょうごインフラ整備事業
10箇年計画



兵庫県
平成26年3月 兵庫県

51

老朽化・防災減災対策

津波防災 -巨大津波に備えた
防災減災対策～
インフラ整備計画



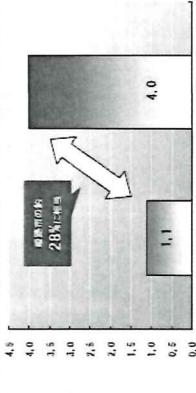
兵庫県
平成27年6月 兵庫県

52

(4) 姫路市への経済効果

姫路市への経済効果

姫路市内で1年間に行われた全ての経済活動を金額に換算すると約4兆円になる。
一方、姫路港の物流機能を利用する割合などが1年間に生み出す金額は約1.1
兆円になる。

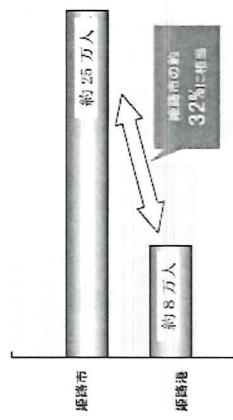


資料：姫路港背後圏社会的・経済的效果検討業務報告書（H15.3）より計算年次等を時点修正（H23）
出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 長崎県

53

姫路市への就業効果

姫路市内で働く人は約25万人に及ぶ。一方、上記の姫路港の生み出す経済活動により誘発される就業者数は約8万人と想定される。



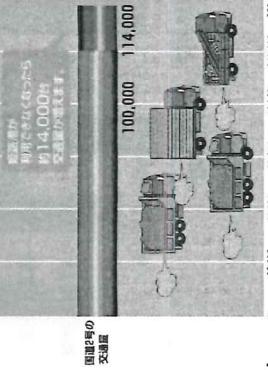
資料：姫路港背後圏社会的・経済的效果検討業務報告書（H15.3）より計算年次等を時点修正（H21）
出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 長崎県

55

国道2号の交通量減少への効果

国道2号の交通量の約1割削減に寄与

昭和36年の交通量と、道路網が開拓されていないときに実測した交通量の比較



資料：姫路港背後圏社会的・経済的效果検討業務報告書（H15.3）
出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 長崎県

56

3. 姫路港の将来への取り組み

- (1) 「姫路港整備・利用計画」の推進
 - (1) 「姫路港整備・利用計画」の推進
 - (2) 姫路港の整備・利用のあり方

57

姫路港整備・利用計画

「姫路港整備・利用計画」とは
概ね20年間の整備と利用の指針を定めたもの

姫路港の将来像とは
みなとから「播磨の元気」を創出する姫路港

播磨の活力	～	物流・産業機能
播磨の元気	～	物流・産業機能
播磨のうるおい	～	環境・防災機能

出典：姫路港整備・利用計画、H22.3 兵庫県

59

- (1) 「姫路港整備・利用計画」の推進
 - 1) 姫路港整備・利用計画とは
 - 2) 基本方針
 - 3) 基本方針の展開

58

基本方針

基本方針	
I	播磨の中核物流拠点の形成と産業高度化への支援 ～活力(物流・産業機能)
II	地域の資源を活かした観光・交流ネットワークの形成 ～にぎわい(交流機能)
III	地域環境の保全・創造/安全・安心な地域生活の確保 ～うるおい(環境・防災機能)

出典：姫路港整備・利用計画、H22.3 兵庫県

60

基本方針の展開

基本方針		基本方針の展開
方針Ⅰ 活力	①物流機能の維持・強化 ②臨海部道路ネットワークの充実 (物流・産業機能) ③産業端産業の立地支援	
方針Ⅱ にぎわい	①旅客船ターミナルの利便性向上 (交流機能) ②観光資源を活用したクルーズ船の誘致 ③港や周辺の観光資源を活用した観光施策の 一層の推進 ④レクリエーションの場としての港の活用	
方針Ⅲ うるおい	①モーダルシフトの推進による地球環境改善への 貢献 (環境・防災機能) ②静脈物流への対応 ③海面処分場の計画的確保 ④貴重な自然海岸の保全 ⑤安全・安心な地域生活の確保	
		出典：姫路港整備・利用計画、H22.3 兵庫県 61

(2) 姫路港の整備・利用のあり方

- 1) 姫路港の整備・利用のあり方とは
- 2) 姫路港の将来像
- 3) 将来像実現に向けた主要施策

62

姫路港の将来像

- 地域の活力源となる強い産業づくりを支える港
- 交流人口の拡大を支える港
- 豊かな自然環境を次世代につなぐ港
- 安全なくらし、安定した企業活動を守る港

出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 兵庫県 64

姫路港の整備・利用のあり方

「姫路港の整備・利用のあり方」とは
概ね15～20年後（平成40年代）の姫路港の将来像

姫路港の将来像とは
理念 ⇒ 「播磨とともにに港がひかかる」

出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 兵庫県 63

将来像実現に向けた主要施策

地域の活力源となる強い産業づくりを支える港

播磨工業地帯の持続的な発展、競争力の維持・拡大のため、背後園主の物流需要に対応した物流機能の強化や、産業用としての機能を向上させるためのインフラ整備など、背後園の産業を支える港としての整備・利用を図る。

施策

- i 背後企業等の需要や物流形態の変化に対応したバルク取扱機能の強化（鋼材、鉛、鉛錠、木村チップ等）
- ii 神戸港間の内航フィーダー輸送の促進
- iii 外航コンテナ定期航路について、背後園の荷主の需要等に応じた検討（超長期）
- iv 背後園物資の円滑化に資する臨海部道路ネットワークの充実
- v 工場・物流施設等の立地促進を図るため、臨海部に存在する低未用地の活用および開発空間の確保
- vi 新エネルギー拠点の形成にも資する開発空間の確保

出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 兵庫県 65

将来像実現に向けた主要施策

交流人口の拡大を支える港

姫路港周辺には世界文化遺産である姫路城など多くの観光客が訪れる観光資源があり、また、網干なぎさ公園など地元住民に親しまれている観光空間や歴史的町並み、富島、産業ソーリズムなど魅力ある新たな可能性を秘めた観光資源も存在する。これらの資源にストーリー性を加味し、観光資源としての深さ・連携を図り、地域内の住民が愛着や誇りを持てるような交流空間の創出により、交流人口の拡大を目指す。

施策

- i 工場夜景などの地域資源の魅力向上による交流空間の創出
- ii 既存の構造空間の有効活用と新たなきらわい空間の創出
- iii 港と内陸市街地のアクセス利便性の向上（南北都市軸の強化）
- iv 定期旅客船の利便性向上と快適な利用空間の創出
- v 姫路しさや姫路港の特色を活かした海のエントランス整備（瀬戸内海クルーズなどの内航クルーズ客船や外航クルーズ客船）
- vi 外航クルーズ船についてはセカンドポート、サードポートとして対応を基本とし、クルーズ船の需要に応じファーストポートでの対応を検討

出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 兵庫県 66

将来像実現に向けた主要施策

豊かな自然環境を次世代につなぐ港

温室効果ガス排出量削減のためトラック輸送から海上輸送へのモーダルシフトの推進や、資源資源の適正な取扱の推進により、環境改善を図る。また、生物の多様性や生産性が確保された「豊かな海」の実現のため、姫路港に残る貴重な自然海岸の保全や干潟・藻場・浅場の造成による自然環境の創出を図る。

さらに、現在の環境改善に資する空間として網干沖地区に極く、開発空間を計画的に確保する。

施策

- i 備蓄資源取り扱い拠点の形成
- ii 浅水土砂を利用して積極的に干渉、藻場等の自然環境を創出
- iii 自然海岸・景勝の保全
- iv 「再堀」神戸港間の内航フィーダー輸送の促進（CO₂排出量削減）
- v 住工混在の解消など内陸の環境改善に資する土地の確保

出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 兵庫県 67

将来像実現に向けた主要施策

安全なくらし、安定した企業活動を守る港

発生の通過性が叫ばれる南海トラフ巨大地震により、大阪湾は甚大な被害が予想される。大阪湾の港湾機能が麻痺する可能性を踏まえ、姫路港において物流のバックアップ機能の一部と支援機能（避難船の係留等）の確保を目指す。また、災害時ににおける内陸部の家島諸島等の離島への人・生活物資の輸送を確保する。

さらに多くの港湾施設が老朽化を迎える中、利用状況、将来の利用見込み、災害時に機能不全になつた場合の背後地域への影響等、総合的な観点から優先順位を設定し、戦略的に老朽化対策を進めめる。

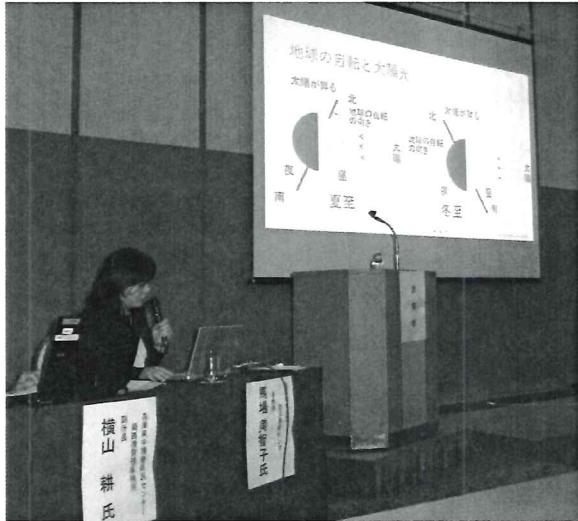
施策

- i 甚大な被害が想定される大阪湾のバックアップ機能の確保
- ii 災害時の内陸部・家島諸島等の人・生活物資輸送の確保
- iii 戦略的老朽化対策の実施（総合的観点からの優先順位設定）

出典：姫路港の整備・利用のあり方、H28.8 兵庫県 68



第5回地域部会 兼 第42回月例会 会場



兵庫県立大学防災教育センター
准教授 馬場 美智子 氏



兵庫県立中播磨県民センター
姫路港管理事務所
副所長 横山 耕 氏

事 業 報 告

新町川における船舶の航行安全検討調査 シミュレータ実験（その1）

1 日 時 平成28年10月14日(金)13:00～16:20

2 場 所 神戸シミュレーションセンター

3 出 席 者 別紙のとおり

4 シミュレータ実験実施内容（予定表）

13:00～13:30	実施要領等説明
13:30～13:40	ケース① 操船実験
13:40～13:50	ケース② 操船実験
13:50～14:05	ミーティング
14:05～14:15	ケース③ 操船実験
14:15～14:25	ケース④ 操船実験
14:25～14:40	ミーティング
14:40～14:50	ケース⑤ 操船実験
14:50～15:00	ケース⑥ 操船実験
15:00～15:15	ミーティング
15:15～15:25	ケース⑦ 操船実験
15:25～15:35	追加ケース
15:35～16:00	ミーティング
16:00	解散

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

部会長	市川義文	海技大学校教授 ※
委員	淺木健司	海技大学校教授 ※
"	松本宏之	海上保安大学校教授 ※
"	今西邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	畠知博	小松島水先区水先人会会长
"	門田光司	南海フェリー(株)常務取締役管理部長(安全統括管理者)
"	清水俊昭	オーシャントランス(株)船舶管理部運航担当部長
"	山本彰彦	住友大阪セメント(株)四国支店副支店長 (代 藤田久男 本社 物流部課長) (同席 中井智史 ナラサキスタックス(株) 運航部貨物船課長)
		(同席 檜原義則 エスオーシー物流(株)安全管理室長)
		(同席 西野岩土 " グループリーダー)
操船者	松永弘之	九州マリン(株)第三十二すみせ丸船長
関係官公庁	村松一昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田勝郎 企画調整官) (同席 園田慎治 管制システム指導官) (同席 池宮崇 海務第二係)
"	紀野重幸	徳島海上保安部長 (代 福田恵二 次長) (同席 仲田幸生 安全係長)
"	安部賢	四国地方整備局港湾空港部長 (代 新見泰之 小松島港湾・空港整備事務所副所長)
"	小谷一雄	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 大谷忠 海上安全環境部調整官) (同席 吉武慎二 " 次席運航労務監理官) (同席 村上良明 和歌山運輸支局首席運航労務監理官)
"	原一郎	徳島県県土整備部長 (代 川口陽一郎 運輸政策課課長補佐)

委託者(国土交通省 四国地方整備局)

//	武田 融昌	徳島河川国道事務所 事業対策官
//	楠 英二	// 道路調査第二課 課長
//	藤原 浩史	// 道路調査第二課 係長
//	西原 優太	// 道路調査第二課

関係者(徳島河川国道事務所 四国横断道PPPチーム)

//	村里 創	四国横断道阿南徳島東事業監理支援業務 技術員
//	佐藤 元彦	// 技術員
//	渡邊 竜一	// 技術員
//	岩井 浩文	// 技術員
事務局	伊藤 雅之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
//	宮島 照仁	// 事業部長
//	原 大地	(株)日本海洋科学神戸支店長
//	平田 裕一	// 主任コンサルタント
//	久下 剛也	// 主任コンサルタント

新町川における船舶の航行安全検討調査 シミュレータ実験（その2）

1 日 時 平成28年10月20日(木)10:00～16:10

2 場 所 神戸シミュレーションセンター

3 出 席 者 別紙のとおり

4 シミュレータ実験実施内容（予定表）

10:00～10:30	実施要領等説明
10:30～10:40	ケース① 操船実験
10:40～10:50	ケース② 操船実験
10:50～11:05	ミーティング
11:05～11:15	ケース③ 操船実験
11:15～11:25	ケース④ 操船実験
11:25～11:40	ミーティング
11:40～12:30	昼食
12:30～12:40	ケース⑤ 操船実験
12:40～12:50	ケース⑥ 操船実験
12:50～13:05	ミーティング
13:05～13:15	ケース⑦ 操船実験
13:15～13:25	ケース⑧ 操船実験
13:25～13:40	ミーティング
13:40～13:50	ケース⑨ 操船実験
13:50～14:00	ケース⑩ 操船実験
14:00～14:15	ミーティング
14:15～14:25	ケース⑪ 操船実験
14:25～14:40	ケース⑫ 操船実験
14:40～14:55	ミーティング
14:55～15:05	ケース⑬ 操船実験
15:05～15:15	ケース⑭ 操船実験（追加ケース）
15:15～15:25	ケース⑮ 操船実験（追加ケース）
15:25～16:00	ミーティング
16:00	解散

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

部会長	市川義文	海技大学校教授 ※
委員	淺木健司	海技大学校教授 ※
"	松本宏之	海上保安大学校教授 ※
"	今西邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	畠知博	小松島水先区水先人会会長
"	門田光司	南海フェリー(株)常務取締役管理部長(安全統括管理者)
"	清水俊昭	オーシャントランス(株)船舶管理部運航担当部長
"	山本彰彦	住友大阪セメント(株)四国支店副支店長
操船者	郡憲二	南海フェリー船長
"	山下孝一	南海フェリー船長
関係官公庁	村松一昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田勝郎 企画調整官) (同席 池宮崇 海務第二係)
"	紀野重幸	徳島海上保安部長 (代 福田恵二 次長)
"	安部 賢	四国地方整備局港湾空港部長 (代 新見泰之 小松島港湾・空港整備事務所副所長)
"	小谷一雄	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 大谷忠 海上安全環境部調整官) (同席 吉武慎二 " 次席運航労務監理官) (同席 水谷亮太 " 運航労務監理官) (同席 村上良明 和歌山運輸支局首席運航労務監理官)
"	原一郎	徳島県県土整備部長 (代 前田満史 運輸政策課港湾空港経営室室長補佐)
委託者(国土交通省 四国地方整備局)		
"	武田融昌	徳島河川国道事務所 事業対策官
"	楠英二	" 道路調査第二課 課長
"	藤原浩史	" 道路調査第二課 係長
"	西原優太	" 道路調査第二課

関係者（徳島河川国道事務所 四国横断道PPPチーム）

//	村 里 創	四国横断道阿南徳島東事業監理支援業務	技術員
//	佐 藤 元 彦	//	技術員
//	渡 邊 竜 一	//	技術員
事 務 局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事	
//	宮 島 照 仁	//	事業部長
//	原 大 地	(株)日本海洋科学神戸支店長	
//	島 津 雅 納	//	主任コンサルタント
//	久 下 剛 也	//	主任コンサルタント

大阪港主航路附帯施設工事に伴う船舶航行安全対策検討調査 第1回委員会

- 1 日 時 平成28年10月27日(木)13:25~15:50
- 2 場 所 神戸ポートタワーホテル 5階 パールの間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
 - (1) 調査方針について
 - (2) 大阪港主航路附帯施設の工事概要(平成24年度報告書抜粋)について
 - (3) 工事の進捗状況と今後の見込みについて
 - (4) 今後の工事における船舶航行安全対策の課題についてについて
 - (5) 大阪港の航行環境等について
 - (6) 今後の工事計画に係る船舶航行安全対策の考え方について
- 5 資 料
 - (1) 検討資料委1-1 調査方針(案)
 - (2) 検討資料委1-2 大阪港主航路附帯施設の工事概要
(平成24年度報告書抜粋)(案)
 - (3) 検討資料委1-3 工事の進捗状況と今後の見込み(案)
 - (4) 検討資料委1-4 今後の工事における船舶航行安全対策の課題について(案)
 - (5) 検討資料委1-5 大阪港の航行環境等(案)
 - (6) 検討資料委1-6 今後の工事計画に係る船舶航行安全対策の考え方(案)
- 6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、鈴木 三郎 委員が委員長に選任された。委託者の近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所 所長 國松 靖様より挨拶を行った。その後、鈴木 三郎 委員長により議事が進められた。
- 7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以上

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授 ※
委 員	岩 瀬 潔	海技大学校教授 ※
//	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会長 ※
//	今 画 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
//	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
//	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
//	植 田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
//	田 淵 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 北野 敏夫 事務局長)
//	井 垣 篤 司	近畿旅客船協会会长 (代 櫻崎 均 (株)フェリーさんふらわあ船舶部副部長)
//	山 田 邦 雄	(公社)関西小型船安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
//	中 原 敏 之	大阪海運組合理事長
//	学 頭 和 也	大阪船主会副会長
//	西 村 生 久	日本押船土運船協会会长 (代 御池 俊郎 業務委員)
//	安 藤 弘 道	大阪港運協会専務理事
//	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
//	遠 藤 飾	全日本海員組合大阪支部長 (代 川合 学 執行部員)
関係官公庁	村 松 一 昭	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 田川 元嗣 海務第二係長)
//	中 村 公 亮	大阪海上保安監部長 (同席 重松 吾郎 航行安全課長) (同席 富田 照雄 第二海務係専門員)
//	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 安達 昭宏 港湾空港整備・補償課長)
//	藪 内 弘	大阪市港湾局長 (代 黒田 剛 海務課担当係長)

委託者	國松 靖	近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所 所長
"	横山 茂雄	" 副所長
"	中田 隆史	" 統括建設管理官
"	藤本 光明	" 保全課長
"	山下 雄生	" 専門官
"	大江 吉仁	" 建設管理官
"	河崎 尚弘	" 工務課長
"	湯浅 楠勝	" 工務課長補佐
"	田中 大輔	" 港湾施設監査官
"	金本 真司	" 総務課長
事務局	伊藤 雅之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	宮島 照仁	" 事業部長
"	江頭 正人	" 研究部長
"	藤原 昇	" 部長補佐
"	大井 伸一	(株)MOLマリン理事
"	豊島 伸匡	" 関西事務所主任研究員
"	藤原 千尋	" 主任研究員

操船シミュレーション手法を用いた操船影響の把握に関する調査研究
第2回委員会

1 日 時 平成28年10月31日(月)13:25~15:40

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- ・ 試行的操船シミュレーションによる検証について

5 資 料

(1) 検討資料委2-1 試行的操船シミュレーションによる検証(案)

(2) 参考資料 コメント整理

席上配布資料

(1) 検討資料委2-1 試行的操船シミュレーションによる検証(案)<全部差替え>

(2) 参考資料 コメント整理<全部差替え>

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後、古莊 雅生 委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以 上

別紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委員長	古 莊 雅 生	神戸大学大学院海事科学研究科教授 ※
委 員	松 本 宏 之	海上保安大学校教授 ※
〃	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
〃	村 井 康 二	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
〃	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会長 ※
〃	末 岡 民 行	内海水先区水先人会副会長 ※
〃	今 画 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
〃	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
〃	植 田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長
関係官公庁	村 松 一 昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田 勝郎 企画調整官) (同席 池宮 崇 海務第二係)
オブザーバー	國 安 政 幸	(株)MOLマリン関西事務所所長 (代 豊島 伸匡 主任研究員)
〃	原 大 地	(株)日本海洋科学神戸支店長
事務局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	江 頭 正 人	〃 研究部長
〃	藤 原 升	〃 部長補佐
〃	高 橋 浩 子	(株)日本海洋科学主任コンサルタント

姫路港大型クルーズ客船の入出港に係る航行安全対策検討調査 第2回検討部会

1 日 時 平成28年11月1日(火)13:25~16:10

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果について
- (2) 係留時の安全性について
- (3) 運用上の課題と安全性の検討について
- (4) 安全対策(素案)について

5 資 料

- (1) 検討資料部2-1 ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果(案)
- (2) 検討資料部2-2 係留時の安全性(案)
- (3) 検討資料部2-3 運用上の課題と安全性の検討(案)
- (4) 検討資料部2-4 安全対策(素案)(案)

席上配布資料

- (1) 席上配布-1 検討資料部2-3 運用上の課題と安全性の検討(案)
9頁~10頁差替え
- (2) 席上配布-2 検討資料部2-4 安全対策(素案)(案) 8頁差替え

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後 藤本 昌志 部会長により議事が進められた。

以 上

別紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

部会長	藤本昌志	神戸大学大学院准教授 ※
委員	岩瀬潔	海技大学校教授 ※
"	松本宏之	海上保安大学校教授 ※
"	末岡民行	内海水先区水先人会副会長 ※
"	今西邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	堤義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	宮田浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
"	植田博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
"	堀川満弘	小豆島フェリー(株)代表取締役社長 (同席 引田義照 海務部長兼運航管理者)
関係官公庁	村松一昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田勝郎 企画調整官) (同席 田川元嗣 海務第二係長)
"	宮里一敏	姫路海上保安部長 (同席 新角伸浩 交通課安全係長)
委託者	中村浩康	兵庫県中播磨県民センター姫路港管理事務所 所長
"	上村博康	" 業務管理課長
"	渡邊光弘	" 港湾整備第1課長
"	藤岡友秀	" 港湾整備第1課長補佐
"	宇野文章	兵庫県国土整備部土木局港湾課副課長
"	田中祥裕	" 整備班班長
"	横尾幸男	" 整備班主査
"	久保大地	" 計画振興班主査
"	横田雅彦	姫路市産業局産業振興課長
事務局	伊藤雅之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	宮島照仁	" 事業部長
"	江頭正人	" 研究部長
"	藤原昇	" 部長補佐
"	原大地	(株)日本海洋科学神戸支店長
"	島津雅納	" 主任コンサルタント
"	高橋浩子	" 主任コンサルタント

平成28年度 第3回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成28年11月8日(火)13:30~15:10

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 意見交換会

内航タンカー海運組合所属大光船舶(株)齋藤雄一様との意見交換会

「ケミカルタンカー業務の現状等について」

5 資 料 (席上配布)

- ・意見交換会資料「ケミカルタンカーにおける安全対策の現状と課題」

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、三村委員長により議事が進められた。大光船舶(株) 業務部/安全船舶管理部次長 齋藤 雄一様より、現状におけるケミカルタンカーの安全対策等の課題について解説をいただき、各委員による意見交換を行った。次回は事故事例検討資料(急性ベンゼン)の検討を行うこととなった。

以上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授 ※
委 員	佐 藤 正 昭	神戸大学環境保全推進センター長 大学院海事科学研究科教授 ※
"	三 輪 誠	神戸大学大学院海事科学研究科講師 ※
"	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソ一化学分析センター長 ※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※ (代 白方 馨 海務監督)
"	向 末 男	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長 ※ (同席 藤原 外喜夫 安全管理部長) (同席 河内 達也 安全管理部長 情報部長)
"	益 田 晶 子	国立研究開発法人海上技術安全研究所 環境・動力系 環境分析研究グループ
関係官公庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	中 里 均	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 黒瀬 健司 環境防災課第一災害対策係長)
"	三 宅 光 成	第五管区海上保安本部交通部航行安全課長 (代 池宮 崇 海務第二係員)
"	重 松 吾 郎	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 川端 成記 航行安全課専門官)
"	前 田 俊 之	神戸海上保安部航行安全課長 (代 戸川 義徳 専門官)
意見交換協力者	齋 藤 雄 一	大光船舶(株) 業務部/安全船舶管理部次長
事 務 局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	江 頭 正 人	" 研究部長
"	藤 原 升	" 部長補佐

大阪港主航路附帯施設工事に伴う船舶航行安全対策検討調査 第2回委員会

1 日 時 平成28年11月21日(月)13:00~14:20

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第1回委員会議事概要について
- (2) 第1回委員会での指摘事項に基づく資料1~5の修正及び追加資料について
- (3) 今後の工事計画に係る船舶航行安全対策の考え方(護岸①概成以降の段階)について
- (4) 今後の工事計画における航行安全対策(変更後の全体版)について
- (5) 報告書構成について

5 資 料

- (1) 第1回委員会議事概要(案)
- (2) 検討資料委2-1 第1回委員会での指摘事項に基づく資料1~5の修正及び追加資料(案)
- (3) 検討資料委2-2 今後の工事計画に係る船舶航行安全対策の考え方(護岸①概成以降の段階)(案)
- (4) 検討資料委2-3 今後の工事計画における航行安全対策(変更後の全体版)(案)
- (5) 検討資料委2-4 報告書構成(案)

席上配布資料

- (1) 席上配布-1 検討資料委2-2 一部差替え
- (2) 席上配布-2 検討資料委1-6 一部差替え

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後、鈴木 三郎 委員長により議事が進められた。委員会審議終了後、委託者の近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所所長 國松 靖様から挨拶があった。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授 ※
委 員	岩 瀬 潔	海技大学校教授 ※
"	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会长 ※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
"	植 田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
"	田 淵 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 北野 敏夫 事務局長)
"	井 垣 篤 司	近畿旅客船協会会长 (代 櫻崎 均 (株)フェリーさんふらわあ 船舶部副部長)
"	山 田 邦 雄	(公社)関西小型船安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
"	中 原 敏 之	大阪海運組合理事長
"	学 頭 和 也	大阪船主会副会長
"	西 村 生 久	日本押船土運船協会会长(代 御池 俊郎 業務委員)
"	安 藤 弘 道	大阪港運協会専務理事
"	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
"	遠 藤 飾	全日本海員組合大阪支部長 (代 川合 学 執行部員)
関係官公庁	村 松 一 昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田 勝郎 企画調整官) (同席 田川 元嗣 海務第二係長)
"	中 村 公 亮	大阪海上保安監部長 (同席 重松 吾郎 航行安全課長) (同席 寺田 照雄 第二海務係専門員)
"	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 安達 昭宏 港湾空港整備・補償課長)
"	藪 内 弘	大阪市港湾局長 (代 黒田 剛 海務課担当係長)

委託者	國松 靖	近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所 所長
"	横山 茂雄	" 副所長
"	中田 隆史	" 統括建設管理官
"	藤本 光明	" 保全課長
"	山下 雄生	" 専門官
"	大江 吉仁	" 建設管理官
"	河崎 尚弘	" 工務課長
"	湯浅 楠勝	" 工務課長補佐
"	田中 大輔	" 港湾施設監査官
"	金本 真司	" 総務課長
事務局	伊藤 雅之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	宮島 照仁	" 事業部長
"	江頭 正人	" 研究部長
"	藤原 昇	" 部長補佐

姫路港大型クルーズ客船の入出港に係る航行安全対策検討調査 第2回委員会

1 日 時 平成28年11月24日(木)13:30~16:15

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第1回委員会議事概要について
- (2) 検討部会報告について
- (3) 委員会及び検討部会における主な指摘事項と修正について
- (4) ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果について
- (5) 係留時の安全性について
- (6) 運用上の課題と安全性の検討について
- (7) 安全対策について
- (8) 報告書構成について

5 資 料

- (1) 第1回委員会議事概要(案)
- (2) 検討資料委2-1 ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果(案)
- (3) 検討資料委2-2 係留時の安全性(案)
- (4) 検討資料委2-3 運用上の課題と安全性の検討(案)
- (5) 検討資料委2-4 安全対策(案)
- (6) 検討資料委2-5 報告書構成(案)

席上配布資料

- ・ 委員会及び検討部会における主な指摘事項と修正

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後、岩瀬 潔 委員長により議事が進められた。委員会審議終了後、委託者の兵庫県中播磨県民センター姫路港管理事務所所長 中村 浩康 様から挨拶があった。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以 上

出席者名簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委員長	岩瀬 潔	海技大学校教授 ※
委員	藤本 昌志	神戸大学大学院准教授 ※
〃	松本 宏之	海上保安大学校教授 ※
〃	末岡 民行	内海水先区水先人会副会長 ※
〃	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
〃	堤 義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
〃	宮田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
〃	植田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
〃	大東 洋治	兵庫海運組合理事長
〃	望月 福子	神戸旅客船協会副会長 (代 沼田 豊彦 神戸旅客船協会)
〃	堀川 満弘	小豆島フェリー(株)代表取締役社長 (同席 引田 義照 海務部長兼運航管理者)
関係官公庁	村松 一昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田 勝郎 企画調整官) (同席 田川 元嗣 海務第二係長)
〃	宮里 一敏	姫路海上保安部長 (同席 新角 伸浩 交通課安全係長)
〃	稻田 雅裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 朝木 祐次 港湾計画課課長補佐)
〃	田中 曜	神戸運輸監理部海上安全環境部長 (同席 田中 広司 姫路海事事務所長)
〃	岡本周治	兵庫県中播磨県民センター長
〃	高馬 豊勝	姫路市産業局長 (代 横田 雅彦 商工労働部産業振興課長)
委託者	中村 浩康	兵庫県中播磨県民センター姫路港管理事務所 所長
〃	上村 博康	〃 業務管理課長
〃	渡邊光弘	〃 港湾整備第1課長
〃	藤岡 友秀	〃 港湾整備第1課長補佐

委託者	田中祥裕	兵庫県県土整備部土木局港湾課整備班班長
〃	横尾幸男	〃 整備班主査
〃	久保大地	〃 計画振興班主査
事務局	伊藤雅之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	宮島照仁	〃 事業部長
〃	江頭正人	〃 研究部長
〃	藤原昇	〃 部長補佐
〃	原大地	(株)日本海洋科学神戸支店長
〃	島津雅納	〃 主任コンサルタント
〃	高橋浩子	〃 主任コンサルタント

操船シミュレーション手法を用いた操船影響の把握に関する調査研究 第3回委員会

1 日 時 平成28年11月28日(月)14:55~17:15

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- ・ 操船シミュレーション手法を用いた操船影響の把握に関する調査研究報告書(案)
について

5 資 料

- (1) 検討資料委3-1 報告書(案)
- (2) 参考資料 コメント整理

席上配布資料

- (1) 席上配布資料1 検討資料委3-1 報告書(案) <全部差替え>
- (2) 席上配布資料2 淺木先生の御意見と原案の比較

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後 古莊 雅生 委員長により議事が進められた。委員会審議終了後、神戸大学大学院 教授 古莊 雅生 委員長による挨拶が行われ、引き続き神戸海難防止研究会 松浦 会長が挨拶を行った。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	古 莊 雅 生	神戸大学大学院海事科学研究科教授 ※
委 員	松 本 宏 之	海上保安大学校教授 ※
〃	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
〃	村 井 康 二	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
〃	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会長 ※
〃	末 岡 民 行	内海水先区水先人会副会長 ※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
〃	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
〃	植 田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
関係官公庁	村 松 一 昭	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 池宮 崇 海務第二係)
オブザーバー	豊 島 伸 匠	(株)MOLマリン関西事務所主任研究員
〃	原 大 地	(株)日本海洋科学 神戸支店長
事 務 局	松 浦 浩 三	(公社)神戸海難防止研究会会长
〃	伊 藤 雅 之	〃 専務理事
〃	江 頭 正 人	〃 研究部長
〃	藤 原 升	〃 部長補佐
〃	高 橋 浩 子	(株)日本海洋科学主任コンサルタント

新町川における船舶の航行安全検討調査 第2回検討部会

1 日 時 平成28年12月6日(火)13:30~16:35

2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階 銀河の間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 架橋計画及び施工方法の概要(汚濁防止膜展張範囲の変更)について
- (2) ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果について
- (3) 安全性の検討について
- (4) 航行安全対策(粗案)について

5 資 料

- (1) 検討資料部2-1 架橋計画及び施工方法の概要(汚濁防止膜展張範囲の変更)(案)
- (2) 検討資料部2-2 ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果(案)
- (3) 検討資料部2-3 安全性の検討(案)
- (4) 検討資料部2-4 航行安全対策(粗案)

席上配布資料

- (1) 席上配布-1 検討資料部2-1 全部差替え
- (2) 席上配布-2 検討資料部2-2 一部差替え P1~2、P45、P47、P58、P65
- (3) 席上配布-3 参考資料 沖洲地区の船溜り内の状況

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後 市川 義文 部会長により議事が進められた。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

部 会 長	市 川 義 文	海技大学校教授 ※
委 員	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授 ※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	畠 知 博	小松島水先区水先人会会长
"	門 田 光 司	南海フェリー(株)常務取締役管理部長 (安全統括管理者) (同席 山下 孝一 管理部長) (同席 郡 憲二 船長)
"	清 水 俊 昭	オーシャントランス(株)船舶管理部運航担当部長 (代 大竹 健士 運航管理課長)
"	山 本 彰 彦	住友大阪セメント(株)四国支店副支店長 (同席 檜原 義則 エスオーシー物流(株)安全管理室長)
関係官公庁	村 松 一 昭	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 池宮 崇 海務第二係)
"	紀 野 重 幸	徳島海上保安部長 (代 福田 恵二 次長)
"	安 部 賢	四国地方整備局港湾空港部長 (代 高木 耕造 小松島港湾・空港整備事務所工務課長)
"	小 谷 一 雄	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 大谷 忠 海上安全環境部調整官) (同席 水谷 亮太 " 運航労務監理官) (同席 村上 良明 和歌山運輸支局首席運航労務監理官)
"	原 一 郎	徳島県県土整備部長 (代 川口 陽一郎 運輸政策課課長補佐)
委 託 者 (国土交通省 四国地方整備局)		
"	楠 英 二	徳島河川国道事務所 道路調査第二課 課長
"	藤 原 浩 史	" 道路調査第二課 係長
"	西 原 優 太	" 道路調査第二課

関係者(徳島河川国道事務所 四国横断道PPPチーム)

〃	村 里 創	四国横断道阿南徳島東事業監理支援業務 技術員
〃	佐 藤 元 彦	〃 技術員
〃	渡 邊 竜 一	〃 技術員
事 務 局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	江 頭 正 人	〃 研究部長
〃	藤 原 昇	〃 部長補佐
〃	原 大 地	(株)日本海洋科学神戸支店長
〃	島 津 雅 納	〃 主任コンサルタント
〃	久 下 剛 也	〃 主任コンサルタント

神戸港航路・泊地等整備に伴う航行安全対策検討調査

第1回委員会

1 日 時 平成28年12月9日(金)10:00~12:00

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 調査方針について
- (2) 土質調査及び浚渫工事の計画概要について
- (3) 神戸港の自然環境及び航行環境について
- (4) 課題の検討について

5 資 料

- (1) 検討資料委1-1 調査方針(案)
- (2) 検討資料委1-2 土質調査及び浚渫工事の計画概要(案)
- (3) 検討資料委1-3 神戸港の自然環境及び航行環境(案)

席上配布資料

- (1) 席上配布-1 検討資料委1-4 課題の検討について
- (2) 席上配布-2 神戸港港湾計画図
- (3) 席上配布-3 検討資料委1-3 目次(差替え)、P50(追加)
- (4) 席上配布-4 検討資料委1-3 P50(差替え)

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、鈴木 三郎 委員が委員長に選任された。
委託者の近畿地方整備局 神戸港湾事務所 所長 小野 正博 様より挨拶を行なった。その後、鈴木 三郎 委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以 上

別紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委員長	鈴木三郎	神戸大学名誉教授 ※
委員	岩瀬潔	海技大学校教授 ※
"	市川義文	海技大学校教授 ※
"	堀眞琴	大阪湾水先区水先人会会長 ※
"	今西邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	堤義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	宮田浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
"	植田博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
"	加藤琢二	神戸旅客船協会会長(代 山西哲司 専務理事)
"	大東洋治	兵庫海運組合理事長(代 内藤恒夫 専務理事)
"	佐伯邦治	兵庫県港運協会会長
関係官公庁	村松一昭	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 池宮崇 海務第二係)
"	近藤悦広	神戸海上保安部長 (同席 前田俊之 航行安全課長) (同席 下須弘文 航行安全課専門官)
"	稻田雅裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 安達昭宏 港湾空港整備・補償課長)
"	田中誠夫	神戸市みなと総局技術部長
委託者	小野正博	近畿地方整備局神戸港湾事務所所長
"	河村良一	" 副所長
"	佐々木高雄	" 副所長
"	川端俊也	" 第一工務課長
"	細見知一	" 第一工務課工務係長
"	山田眞理	" 先任建設管理官
"	松本伸春	" 保全課長
"	上中一弘	" 保全課事業係長

関係者	高橋 雅樹	近畿地方整備局兵庫国道事務所工事品質管理官
"	西納 和宏	" 計画課調査係長
"	玉利 俊瑛	" 港務第一課専門調査員
事務局	伊藤 雅之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	宮島 照仁	" 事業部長
"	江頭 正人	" 研究部長
"	藤原 昇	" 部長補佐

大阪湾における船舶動静監視と情報提供のあり方に関する検討調査

第1回委員会

- 1 日 時 平成28年12月19日(月)13:30~16:15
- 2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
- (1) 調査方針等について
 - (2) 大阪湾の航行環境について
 - (3) 大阪湾の将来的な海上交通環境の変化予測（将来推計の手順）について
 - (4) 非常災害時における船舶への影響等について
 - (5) 大阪湾海上交通センター及び港内交通管制室等におけるシステムの現状について
 - (6) 海事関係機関におけるシステムの現状について
 - (7) 海事関係者の意識・ニーズ調査 調査実施方案について
- 5 資 料
- (1) 検討資料委1-1 調査方針（案）
 - (2) 検討資料委1-2 大阪湾の航行環境（案）
 - (3) 検討資料委1-3 大阪湾の将来的な海上交通環境の変化予測
（将来推計の手順）（案）
 - (4) 検討資料委1-4 非常災害時における船舶への影響等（案）
 - (5) 検討資料委1-5 大阪湾海上交通センター及び港内交通管制室等における
システムの現状（案）
 - (6) 検討資料委1-6 海事関係機関におけるシステムの現状（案）
 - (7) 検討資料委1-7 海事関係者の意識・ニーズ調査 調査実施方案（案）
- 席上配布資料
- (1) 席上配布-1 検討資料委1-5（全部差替え）
 - (2) 席上配布-2 検討資料委1-7（アンケート用紙 追加）
 - (3) 席上配布-3 参考資料 将来推計の手順
 - (4) 席上配布-4 海上交通安全法等の一部を改正する法律
- 6 議 事
- 事務局により出席者および資料の確認を行い、長澤 明 委員が委員長に選任された。
委託者の第五管区海上保安本部 交通部長 村松 一昭 様より挨拶を行った。その後、長澤 明 委員長により議事が進められた。
- 7 審議結果
- 提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。
- 以上

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	長 澤 明	海上保安大学校名誉教授 ※
委 員	山 本 一 誠	海技大学校教授 ※
//	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
//	末 岡 民 行	内海水先区水先人会副会長 ※
//	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会长 ※
//	今 画 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
//	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
//	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
//	植 田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
//	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 北野 敏夫 事務局長)
//	鴨 頭 明 人	全日本海員組合関西地方支部長 (代 中野 達也 執行部員)
//	大 東 洋 治	兵庫海運組合理事長 (代 内藤 恒夫 専務理事)
//	中 原 敏 之	大阪海運組合理事長
//	安 藤 弘 道	大阪港運協会専務理事
//	西 村 生 久	日本押船土運船協会会长 (代 御池 俊郎 業務委員)
//	井 垣 篤 司	近畿旅客船協会会长 (代 國友 雄二 (株)フェリーさんふらわあ 船舶部長)
//	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会会长 (代 山西 哲司 専務理事)
//	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
//	山 田 邦 雄	(公社)関西小型船安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
関係官公序	中 村 公 亮	大阪海上保安監部長 (代 田口 康文 次長) (同席 重松 吾郎 航行安全課長) (同席 會所 司 港内交通管制室長) (同席 川端 成記 航行安全課専門官)

関係官公庁	近 藤 悅 広	神戸海上保安部長 (同席 津野 芳隆 次長) (同席 前田 俊之 航行安全課長) (同席 戸川 義徳 航行安全課専門官)
"	伊 藤 恒 治	大阪湾海上交通センター所長 (同席 河野 稔 運用管制課長)
"	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長
"	小 谷 一 雄	近畿運輸局海上安全環境部長
"	田 中 晓	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	辰 谷 義 明	大阪府港湾局長 (代 田川 慎一 計画調整課長) (同席 山本 雄史 計画グループ計画総括主査)
"	糟 谷 昌 俊	兵庫県県土整備部長 (代 宇野 文章 港湾課副課長)
"	藪 内 弘	大阪市港湾局長 (代 松井 圭一 防災・施設担当部長) (同席 藏所 泰剛 計画整備部計画課長代理) (同席 大野 大輔 " 海務課長代理)
"	吉 井 真	神戸市みなど総局長 (代 村井 宏一 海務課港務係長)
委託者	村 松 一 昭	海上保安庁 第五管区海上保安本部交通部長
"	服 部 理	" 企画課長
"	三 宅 光 成	" 航行安全課長
"	北 野 隆 志	" 航行安全課専門官
"	田 川 元 瞳	" 航行安全課海務第二係長
"	澤 塙 光 弘	" 航行安全課海務第一係
事務局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	宮 島 照 仁	" 事業部長
"	江 頭 正 人	" 研究部長
"	藤 原 升	" 部長補佐

神戸港沖合等における船舶交通流の整流化に関する調査研究 第2回委員会

1 日 時 平成28年12月22日(金)13:30~16:15

2 場 所 パレス神戸 2階 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) AISデータによる船舶通航実態の解析結果について
- (2) アンケート解析結果について
- (3) 交通流シミュレーション実施方案について

5 資 料

- (1) 検討資料委2-1 AISデータによる船舶通航実態の解析(案)
- (2) 検討資料委2-2 アンケート結果の解析
- (3) 検討資料委2-3 交通流シミュレーション実施方案

席上配布資料

- (1) 席上配布資料-1 「第一回委員会コメント整理及び今後の対応」
 - 別添-1 海苔ひび乗揚げ海難事例概要
 - 別添-2 用途・年別船舶同士の衝突海難発生状況
 - 別添-3 船舶同士の衝突海難の位置
 - 別添-4 平成28年3月と平成27年12月のAISデータの航跡の比較
 - 別添-5 大阪湾における漁業
- (2) 席上配布資料-2 「神戸港沖合等における船舶交通流の整流化に関する調査研究ヒアリング対象事業所等(案)」
- (3) 席上配布資料-3 「通航経路の試案」

6 議 事

事務局により出席者および資料の確認を行い、以後 長澤 明 委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以 上

出席者名簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委員長	長澤 明	海上保安大学校名誉教授 ※
委員	奥田 成幸	海技大学校教授 ※
"	世良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科・海事科学部准教授 ※
"	堀 真琴	大阪湾水先区水先人会会長 ※
"	末岡 民行	内海水先区水先人会副会長 (代 大泉 勝 会長)
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	堤 義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	宮田 浩	(株)商船三井海上安全部部長代理 ※
"	植田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
"	鴨頭 明人	全日本海員組合関西地方支部支部長 (代 除補 修 副支部長)
"	田淵 訓生	全国内航タンカー海運組合関西支部支部長 (代 北野 敏夫 事務局長)
"	白野 哲也	大阪フェリー協会専務理事
"	山田 邦雄	(公社)関西小型船舶安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
"	加藤 琢二	神戸旅客船協会会长 (代 山下 裕久 安全運航対策委員会委員)
"	國友 雄二	近畿旅客船協会
関係官公庁	村松 一昭	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三宅 光成 航行安全課長) (同席 澤埜 光弘 海務第一係)
"	中村 公亮	大阪海上保安監部長 (代 田口 康文 次長) (同席 飯沼 順 第一海務係長)
"	近藤 悅広	神戸海上保安部長 (同席 重金 力 第一海務係長)
"	渡辺 博史	堺海上保安署長 (代 清水 景平 港務係長)

関係官公庁 伊藤恒治 大阪湾海上交通センター所長
(代 平山 浩 次長)
(同席 河野 稔 運用管制課長)

〃 小谷一雄 近畿運輸局海上安全環境部長

〃 稲田雅裕 近畿地方整備局港湾空港部長
(代 安達 昭宏 港湾空港整備・補償課長)

〃 田中 晓 神戸運輸監理部海上安全環境部長

〃 取香 諭司 水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長

事務局 伊藤雅之 (公社)神戸海難防止研究会専務理事

〃 江頭正人〃 研究部長

〃 藤原昇〃 部長補佐

〃 大井伸一 (株)MOLマリン理事

〃 藤原千尋〃 関西事務所主任研究員

会務報告

第41回 業務運営会議

1 日 時 平成28年10月19日(水)12:00~13:00

2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室

3 出 席 者 (順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

議長
代表理事 松浦 浩三 (公社)神戸海難防止研究会会長
業務執行理事 伊藤 雅之 (公社)神戸海難防止研究会専務理事

構成員 久保 雅義 神戸大学名誉教授
〃 大泉 勝 内海水先区水先人会会长
〃 堀 真琴 大阪湾水先区水先人会会长
〃 小島 茂 (一社)日本船長協会会長
（代 今西 邦彦 技術顧問）
〃 学頭 和也 (株)商船三井関西支店長
（代 宮田 浩 海上安全部長代理）
〃 松島 豊 川崎汽船(株)
（代 植田 博 関西支店副支店長）
〃 川手 純一 日本郵船(株)関西支店長
（代 堤 義晴 関西支店支店長代理）
〃 藤井 寿夫 (株)神戸製鋼所常任顧問

事務局 奥野 忠裕 (公社)神戸海難防止研究会総務部長
〃 宮島 照仁 (公社)神戸海難防止研究会事業部長
〃 江頭 正人 (公社)神戸海難防止研究会研究部長
〃 藤原 昇 (公社)神戸海難防止研究会部長補佐

4 議題

- (1) 業務報告等について
- (2) 平成29年度補助金交付金申請について
- (3) その他

5 資料

席上配布

資料1 業務報告等

資料1-2 受託業務の現況について

資料2 平成29年度補助金交付金申請

6 議事概要

松浦議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題（1）業務報告等について、伊藤業務執行理事から説明があった。引き続き受託業務の現況について説明があった。特に意見はなかった。議題（2）平成29年度補助金交付金申請について、伊藤業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（3）その他について、次回の業務運営会議等の開催予定日について説明があった。

以上

第42回 業務運営会議

1 日 時 平成28年11月16日(水)12:00~12:55

2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室

3 出 席 者 (順不同・敬称略)

議 代 表 理 長 松 浦 浩 三 (公社)神戸海難防止研究会会長
業務執行理事 伊 藤 雅 之 (公社)神戸海難防止研究会専務理事

構 成 員 久 保 雅 義 神戸大学名誉教授
〃 大 泉 勝 内海水先区水先人会会長
〃 堀 真 琴 大阪湾水先区水先人会会長
〃 小 島 茂 (一社)日本船長協会会長
(代 今西 邦彦 技術顧問)
〃 学 頭 和 也 (株)商船三井関西支店長
(代 宮田 浩 海上安全部長代理)
〃 松 島 豊 川崎汽船(株)
(代 植田 博 関西支店副支店長)
〃 川 手 純 一 日本郵船(株)関西支店長
(代 堤 義晴 関西支店支店長代理)
〃 藤 井 寿 夫 (株)神戸製鋼所常任顧問

事 務 局 奥 野 忠 裕 (公社)神戸海難防止研究会総務部長
〃 宮 島 照 仁 (公社)神戸海難防止研究会事業部長
〃 江 頭 正 人 (公社)神戸海難防止研究会研究部長
〃 藤 原 昇 (公社)神戸海難防止研究会部長補佐

4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) 理事会提出議案について
 - ① 平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)
 - ② 入会承認について
- (3) その他

5 資 料

席上配布

資料1 業務報告等

資料2 平成29年度 事業計画書 収支予算書（案）

資料3 入会申し込みの承認について

資料4 副会長・代表理事の選定について

6 議事概要

松浦議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題（1）業務報告等について、伊藤業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（2）理事会提出議案について、伊藤業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（3）その他について、副会長・代表理事の選定について説明があった。次回の業務運営会議等の開催予定日について説明があった。

以上

公益社団法人 神戸海難防止研究会
第15回 通常理事会議事録

1 日 時 平成27年12月14日(水) 15時55分から
16時40分までの間

2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号
神戸メリケンパークオリエンタルホテル4階銀河の間

3 理事総数 17名

出席理事数 13名

(出席者名)

松浦浩三 久保雅義 大泉勝 堀眞琴
伊藤雅之 桑田康生 田邊礼士 三木真人
大東洋治 後藤暢茂 村岡博 小島茂
松島豊

4 監事数 3名

出席監事数 3名

(出席者名)

八木武人 藤井寿夫 山本亨

5 議案

第1号議案 平成29年事業計画書(案)及び収支予算書(案)について

第2号議案 入会申し込み承認について

第3号議案 その他

6 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について

7 議事の経過概要及びその結果

15時55分に開会、事務局から本日の出席理事は13名で、理事総数19名の過半数を超えており、定款第42条の規定により本理事会が成立する旨を確認し、報告した。

審議に先立ち松浦会長が挨拶を行い、定款第41条の規定に基づき松浦会長が議長となり、本日の議事録の署名に関して定款第45条に基づき、代表理事の松浦浩三氏と出席監事の八木武人氏、藤井寿夫氏及び山本亨氏にお願いして議事の審議に入った。

○第1号議案 平成29年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)について

事務局から配布資料1により、平成29年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)の説明が行われた。

議長が、質疑を議場に求めたところ、特に発言が無かったことから議案の可否を議場に諮ったところ、満場一致で原案とおり可決された。

○第2号議案 入会申し込みの承認について

事務局から配布資料2により、正会員（個人会員）の入会申し込みについて説明が行われた。

議長が、質疑を議場に求めたところ、特に発言が無かったことから議案の可否を議場に諮ったところ、満場一致で原案とおり可決された。

○第3号議案 その他について

議長が、他に議案は無いか発言を求めたところ、事務局から他に議案は無いと報告が行われ、また、議場からも発言が無かった。

提出議案全ての審議終了後、代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について、配布資料3に基づき伊藤専務理事から報告がなされた。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、16時40分に閉会した。

平成28年12月14日

代表理事 松浦浩三

出席監事 八木武人

出席監事 藤井寿夫

出席監事 山本亨

○ 事務日誌抄

(H28. 10. 1～H28. 12. 31)

月 日	曜 日	時 間	委 員 会 名	実 施 場 所
10. 14	(金)	1330	新町川における船舶の航行安全検討調査 シミュレータ実験（その1）	神戸シミュレーションセンター
10. 19	(水)	1200	第41回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
10. 20	(木)	0900	新町川における船舶の航行安全検討調査 シミュレータ実験（その2）	神戸シミュレーションセンター
10. 27	(木)	1325	大阪港主航路附帯施設工事に伴う船舶航行 安全対策検討調査 第1回委員会	神戸ポートタワーホテル
10. 28	(金)	1500	第41回月例会	こうべまちづくり会館
10. 31	(月)	1325	操船シミュレータ手法を用いた操船影響 の把握に関する調査研究 第2回委員会	ラッセホール
11. 1	(火)	1325	姫路港大型クルーズ客船の入出港に係る 航行安全対策検討調査 第2回検討部会	ラッセホール
11. 8	(火)	1330	平成28年度 第3回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
11. 16	(水)	1200	第42回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
11. 21	(月)	1300	大阪港主航路附帯施設工事に伴う船舶航行 安全対策検討調査 第2回委員会	ラッセホール
11. 24	(木)	1330	姫路港大型クルーズ客船の入出港に係る 航行安全対策検討調査 第2回委員会	パレス神戸
11. 25	(金)	1500	第5回地域部会兼第41回月例会（姫路）	姫路キャッスルグランヴィリオホテル
11. 28	(月)	1455	操船シミュレータ手法を用いた操船影響 の把握に関する調査研究 第3回委員会	ラッセホール
12. 6	(火)	1330	新町川における船舶の航行安全検討調査 第2回検討部会	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
12. 9	(金)	1000	神戸港航路・泊地等整備に伴う航行安全 対策検討調査 第1回委員会	ラッセホール
12. 14	(水)	1555	第15回通常理事会	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
12. 19	(月)	1330	大阪湾における船舶動静監視と情報提供の あり方に関する検討調査 第1回委員会	ラッセホール
12. 22	(木)	1330	神戸港沖合等における船舶交通流の整流 化に関する調査研究 第2回委員会	パレス神戸